

加古川市文化財年報

第7号

令和3（2021）年度

令和6（2024）年3月

加古川市教育委員会

加古川市文化財年報

第7号

令和3（2021）年度

令和6（2024）年3月

加古川市教育委員会

目 次

目次・例言・凡例

巻頭図版

第1章 調査研究	1
調査報告1 西条遺跡 確認調査報告	5
調査報告2 大塚遺跡 確認調査報告	7
調査報告3 井ノ口遺跡 確認調査報告	11
調査報告4 溝之口遺跡 確認調査報告	17
調査報告5 金属製品保存処理 概要報告	20
調査報告6 坂元の石造宝鏡印塔 修理工事立会調査報告	23
第2章 文化財の保護と活用	26
新市指定文化財 木造金剛界大日如来坐像	26
第3章 文化財審議委員会	34
第4章 文化財関係の事務処理	36
第5章 組織、予算、決算、管理	45
報告書抄録	

例 言 ・ 凡 例

1. 本書は、令和3（2021）年度に加古川市教育委員会が実施した文化財保護のための調査及び活動を記録した報告書である。
2. 本書の作成は、加古川市教育委員会事務局教育指導部文化財調査研究センターが行った。執筆は山中リュウ、平尾英希、古林舞香が行い、編集は古林が行った。執筆の分担は文末に明記している。
3. 出土遺物の整理、実測、レイアウト、撮影については、平尾、古林のほか、会計年度任用職員井上かおり、大河璇香（大手前大学生）、窪田美佳、佐藤薫が行った。
4. 図表作成に係るデータ整理は、会計年度任用職員前田富子が補助した。
5. 遺物実測図の断面は、須恵器を黒塗り、弥生土器・土師器を白抜きで表現している。
6. 掲載した地図は、加古川市域図（令和2年度加古川市発行）に加筆修正を行い使用した。縮尺は各地図に示している。
7. 本書で報告した出土遺物、実測図、写真等は加古川市教育委員会が保管している。



令和3年度指定 市指定文化財 木造金剛界大日如来坐像（報恩寺）

卷頭図版 2



修理後の坂元の石造宝篋印塔（兵庫県指定文化財）

第1章 調査研究

1 埋蔵文化財調査

国及び県の文化財関係補助金事業として、各種開発事業に伴う市内遺跡の発掘調査や出土品の整理を行ったほか、過去の発掘調査で出土した金属製品の保存処理を行った。また、昭和 59（1984）年に初版を刊行した遺跡分布地図の改訂を行い、『加古川市遺跡分布地図－第4版－』を刊行した。

令和 3（2021）年度は、①開発事業に伴い破壊される遺構・遺物を記録保存することを目的とした発掘調査を 2 件、②周知の埋蔵文化財包蔵地（遺跡）内での開発事業に伴い破壊されるおそれのある遺構・遺物の状況を確認することを目的とした確認調査などを 26 件、③周知の埋蔵文化財包蔵地（遺跡）外での開発事業に伴い事前に埋蔵文化財の有無を把握することを目的とした試掘調査を 7 件実施した（表 1）。

開発事業に伴う発掘調査は、上村池遺跡及び美乃利遺跡において実施した。以下、その成果の概要について述べていく。

上村池遺跡 兵庫県が事業主体となって行っている農業基盤整備事業の雁戸井地区ほ場整備事業に伴い、水路工事部分約 600 mにおいて発掘調査を実施した。調査の結果、掘立柱建物跡 7 棟、土坑 45 基、溝状遺構 16 条、ピット 84 基、鍛冶痕跡 1 基を検出した。遺物は全体的に少なく、主に奈良時代（8 世紀）を中心とした土器類や須恵器、瓦などの破片が遺物収納コンテナ 7 箱分出土した。なお、遺構の種別や数量は、現場作業終了時の集計であるため、今後刊行される発掘調査報告書では若干の変更が見込まれる。

上村池遺跡は、同じほ場整備事業に伴うものとして、平成 28・29（2016・2017）年度にも発掘調査を実施している。奈良時代に関連する遺構としては、掘立柱建物跡 7 棟や土坑・ピットが確認されており、掘立柱建物の中には、一般的な集落遺跡では確認されないような大きな柱穴で構成されている大型建物が含まれていた。遺物には、志方地域で焼かれた良質な須恵器や暗文土師器、製塙土器などがみられ、遺構の様子も含めて官衙的な要素を持った集落の可能性が指摘されている。

今回の調査においても、現在把握している 7 棟の掘立柱建物跡のうち、4 棟は大型の建物に復元することができ、建物の配置には計画性がみられることなどから、遺物は少ないものの、官衙的な性格を持った半官半民の集落であった可能性はますます高まったといえる。

なお、詳細な調査成果については、令和 7（2025）年度に発掘調査報告書を刊行する予定である。

美乃利遺跡 加古川市が事業主体となって行っている中津水足線外 1 線道路改良事業（大野バイパス）に伴い、道路敷設部分 296 mにおいて発掘調査を実施した。令和 3 年度の調査場所は、令和元（2019）年度に発掘調査を行ったところの延長部分にあたり、過去に周辺で行われた発掘調査の成果から、当該地においても遺構・遺物が分布していることが想定された。

計 2 面の遺構面で調査を行った結果、第 1 面では掘立柱建物 1 棟のほか、溝、土坑やピットが多数検出された。溝のなかには北東 - 南西方向に延びる幅 9 m以上の大溝も存在していた。出土遺物の様相から、これらの遺構の大部分は平安時代を中心とする時期に帰属するものと推測される。第 2 面では、土坑やピットのほか、北 - 南方向に延びる幅 4 m前後の大溝などが検出された。出土遺物が少ないといため大部分の遺構の時代は判然としないが、大溝の出土遺物は弥生土器が主体であることから、この大溝については弥生時代を中心とする時期に埋没したものと考えられる。

過去の調査成果を含め、当該地周辺では複数の時期の遺構・遺物が確認されており、今回調査においてもほぼ同様の状況を確認することができた。令和元年度に実施した発掘調査の成果などとあわせて、遺跡の様相が徐々に明らかになってきたといえるであろう。

なお、今回の調査成果については、令和元年度に実施した発掘調査成果とあわせて、令和6（2024）年度に発掘調査報告書を刊行する予定である。

一方、試掘調査、確認調査及び分布調査については、各種開発事業に伴い周知の埋蔵文化財包蔵地内外で計33件の調査を実施した。本年報では、これらの調査のうち、遺構・遺物が確認されたものを中心として4件の調査成果について報告する（図1①～④）。そのほか、文化財関係補助金事業として実施した市内遺跡出土金属製品保存処理の概要報告（図1⑤）、県指定文化財石造宝篋印塔修繕事業（県補助事業）として実施された坂元の石造宝篋印塔の修理工事に係る立会調査報告を掲載している（図1⑥）。

2 その他の文化財調査

埋蔵文化財を除いたその他の文化財調査については、文化財説明板整備に係る巡視を1件、指定文化財を含む市内文化財の現状確認のための巡視を13件行った。

（中山、平尾、古林）

表1 発掘調査、試掘・確認調査及び分布調査一覧

発掘調査

番号	遺跡	所在地	調査期間	調査面積	調査概要	備考
1	上村遺跡 集落跡・生産遺跡	八幡町中西条地内 奈良・平安	11月15日～ 令和4年2月15日	615 m ²	孤立柱建物跡・土坑・ピット・ 溝状遺構・鍛冶痕跡 土師器・須恵器・瓦	堀川井地区は埋蔵 備事業に伴う発掘 調査
2	美乃利遺跡 集落跡	加吉川町大野地内 弥生～中世	令和4年3月28日 ～8月5日	296 m ²	孤立柱建物跡・土坑・ピット・ 溝状遺構 弥生土器・土師器・須恵器	中津水足園跡1編 道路改良事業に伴 う発掘調査

試掘・確認・分布調査

番号	遺跡 ^{※1}	所在地	調査期間 ^{※2}	調査面積	調査概要	備考
1	西条遺跡 集落跡 國文～平安	神野町西条 1154-1	4月20日	9.6 m ²	土坑・ピット 土師器・須恵器	
2	西条遺跡 集落跡 國文～平安 聖院山古墳	神野町西条 1051-3 聖院山古墳	4月27日	4.5 m ²	遺構なし 弥生土器・土師器・須恵器	
3	古墳 古墳	野口町長砂 757-1	5月18日	4.5 m ²	溝状遺構 土師器	
4	上莊町見土呂地区	上莊町見土呂 845-16	5月24日 ～6月2日	16.0 m ²	遺構・遺物なし	みところルーツパーク再整備事業に伴う 試掘調査
5	長塙遺跡 集落跡 弥生	平岡町山之上 630-1	5月25日	8.0 m ²	遺構・遺物なし	
6	奥新田遺跡 散布地、國文 高の宮遺跡	平庄町中山地内	5月26日 ～6月29日	95.2 m ²	遺構・遺物なし	権現総合公園整備事 業に伴う試掘・確認 調査
7	集落跡 弥生・古墳	尾上町口里 475-2外	6月1・2日	9.0 m ²	遺構なし 土師器・須恵器	
8	中津構居跡 城根跡 中世	加吉川町中津 125-10	6月8日	4.0 m ²	土坑 遺物なし	
9	坂元遺跡 集落跡 國文～中世	野口町坂元北一丁目 23-2	6月17日	9.0 m ²	ピット 須恵器	

番号	道路 ^{※1}	所在地	調査期間 ^{※2}	調査面積	調査概要	備考
10	神吉道路 集落跡 弥生	東神吉町天下原 287-1	6月 29日	4.0 m ²	遺構なし 須恵器	
11	長砂橋跡 中世	野口町長砂 541-3外	6月 30日	70.57 m ²	遺構・遺物なし	
12	古代山陽道 その他の遺跡 奈良	野口町二屋 270-44・45	7月 6日	4.5 m ²	遺構・遺物なし	
13	漢之口道路 集落跡 弥生～平安	加古川町薗乃利 154-5	7月 13日	4.0 m ²	遺構なし 土師器・須恵器	
14	東神吉道路 集落跡 弥生～古墳	東神吉町砂部 354-47	7月 22日	4.5 m ²	遺構・遺物なし	
15	大塚道路 集落跡 中世	野口町良野 23 の一部	7月 14～16日	45.8 m ²	漢状遺構 須恵器	
16	加古川町南備後地	加古川町南備後 340 外	8月 6日	10.0 m ²	遺構・遺物なし	民間開発に伴う試掘調査
17	平荘中学校	平荘町山角 740	8月 11・26日	9.0 m ²	遺構・遺物なし	中学校新築工事事業に伴う試掘調査
18	井ノ口道路 集落跡 奈良	上莊町井ノ口 560-1 の一部	9月 7・9・10日、10月 1日	23.55 m ²	ピット・漢状遺構 土師器・須恵器	
19	觀音寺城跡 城塙跡 中世	志方町志方町 1538-2 の一部	9月 28日	6.0 m ²	遺構・遺物なし	
20	志方町水室地区	志方町水室地内	10月 8日	約 100 m ²	遺構・遺物なし	分布調査後、周知の 埋蔵文化財包蔵地変 更報告（大藤山3号 墳）
21	古代山陽道 その他の遺跡 奈良	平岡町二俣 905-131 外	10月 27日	4.5 m ²	遺構・遺物なし	
22	城塙跡 古墳 古墳	八幡町中西条地内	11月 4日	約 1000 m ²	遺構・遺物なし	遺跡分布図改訂に 伴う分布調査
23	漢之口道路 集落跡 弥生～平安	加古川町漢之口 76-13, 77-12	12月 2日	4.0 m ²	遺構・遺物なし	
24	加古川町大野地区	加古川町大野 197-1 外	12月 7・8日	8.0 m ²	ピット 土師器	民間開発に伴う試掘 調査
25	漢之口道路 集落跡 弥生～平安	加古川町漢之口 32-15	12月 27日	4.0 m ²	漢状遺構 弥生土器・土師器・須恵器・瓦 質土器	
26	漢之口道路 集落跡 弥生～平安	加古川町漢之口 373-1 の一部	令和4年 1月 18日	4.0 m ²	遺構・遺物なし	
27	細田橋居跡 城塙跡 中世	野口町良野 77 の一部外	令和4年 1月 24・25日	12.5 m ²	遺構・遺物なし	
28	長櫛道路 集落跡 弥生	平岡町山之上 660	令和4年 2月 1日	8.0 m ²	遺構・遺物なし	
29	西条道路 集落跡 調文～平安	神野町西条 1154-2 外	令和4年 2月 8・9日	8.0 m ²	遺構・遺物なし	
30	野口町古大内地区	野口町古大内 324-1 外	令和4年 2月 16日	8.0 m ²	土坑・漢状遺構 土師器	民間開発に伴う試掘 調査
31	古大内道路 官窯・集落跡 奈良	野口町古大内 444-1 外	令和4年 3月 2・3日	9.28 m ²	土坑 遺物なし	民間開発に伴う分布 調査
32	八幡町野村地区	八幡町野村 815-1 外	令和4年 3月 17日	2.41ha	遺構・遺物なし	民間開発に伴う分布 調査
33	平荘町里地区	平荘町里 1129-3 外	令和4年 3月 30日	4.9ha	遺構・遺物なし	民間開発に伴う分布 調査

※1 埋蔵文化財包蔵地範囲外における試掘調査では、遺跡名称及び種類・時期でなく地区名を記している。

※2 調査期間は、試掘・確認調査のほか、その後に実施した工事立会などの期間も含む。

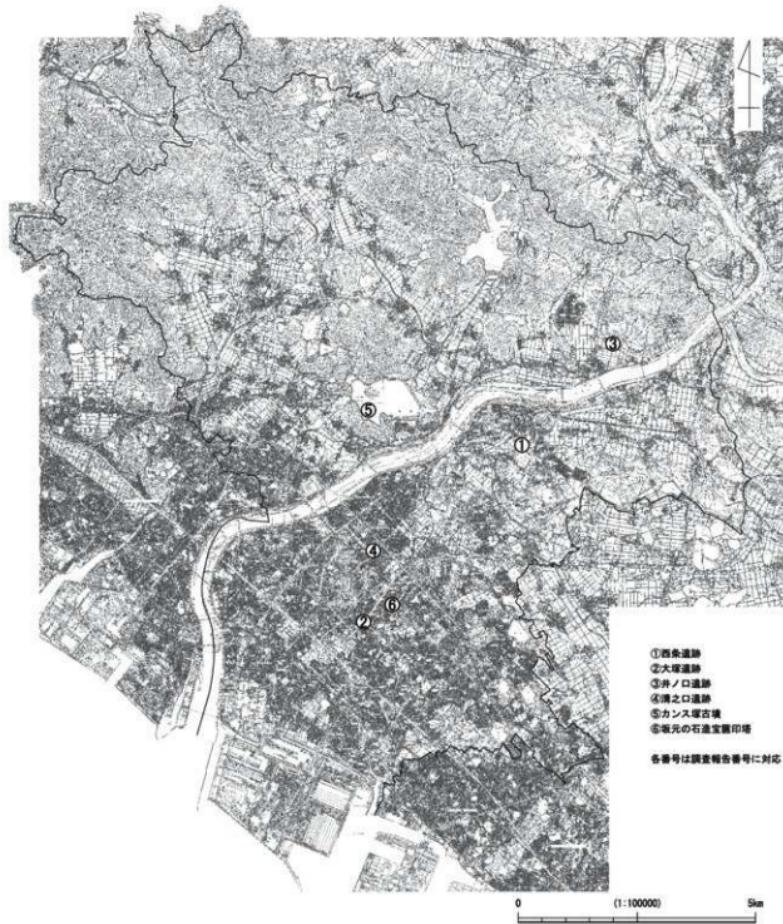


図1 埋蔵文化財調査及びその他の文化財調査（本書報告分）位置図

調査報告 1 西条遺跡 確認調査報告

調査場所 加古川市神野町西条 1051 番 3

調査期間 令和 3 年 4 月 27 日

調査面積 4.5 m²

担当者 古林舞香

1 調査に至る経緯

加古川市神野町西条 1051 番 3 (230 m²) において宅地造成工事が計画された(図 2)。当該地は西条遺跡に位置していたため、開発業者と協議を行い埋蔵文化財の性格、内容等を把握するための確認調査を実施することとなった。



図 2 調査位置図

2 調査の結果

工事予定地に長辺 3.0 m、短辺 1.5 m の調査区を 1 か所設定し、確認調査を実施した(図 3)。調査区の基本層序は、耕作土・床土直下に遺物包含層である黄褐色シルト(3 層)・灰黄褐色粘質シルト(4 層)・にぶい黄褐色シルト混じり灰黄褐色シルト(5 層)が堆積し、その下位に地山とみられるにぶい黄褐色粘質シルト混じり灰黄褐色粘質シルト(6 層)、明黄褐色シルト混じり灰黄色シルト(7 層)が堆積する(図 4)。

4 層から 6 層までのいずれの層でも遺構は検出されなかった。遺物は、遺物包含層(3 ~ 4 層)を中心に弥生土器、古墳時代から中世までとみられる土師器・須恵器片が一定量出土した(図 5)。器種は、須恵器杯蓋(図 5-1)・杯 B(図 5-2)・杯又は椀(図 5-3・4)・厚底鉢(図 5-5)などがあり、そのほか図化し得なかったものに弥生土器甕、土師器甕、須恵器甕、壺などがある。

3まとめ

調査の結果、遺物包含層から弥生土器、古墳時代から中世までとみられる土師器・須恵器片が一定量出土した。今回調査地は西条遺跡のほぼ中央に位置している。周辺ではこれまで幾度かの調査が実施されており、弥生時代の竪穴建物跡や、奈良時代から平安時代頃までの遺構・遺物が確認されている。今回調査地において遺構は確認されなかつたが、周辺集落と時期的に重なる土器片を含んだ遺物包含層の存在を踏まえると、当該地周辺にも集落域が及んでいる可能性が考えられる。

(古林)

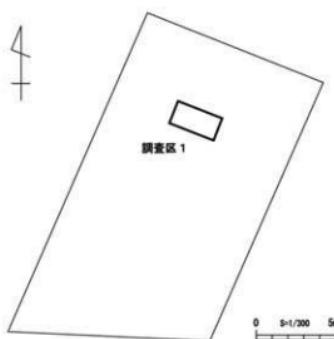


図 3 調査区配置図

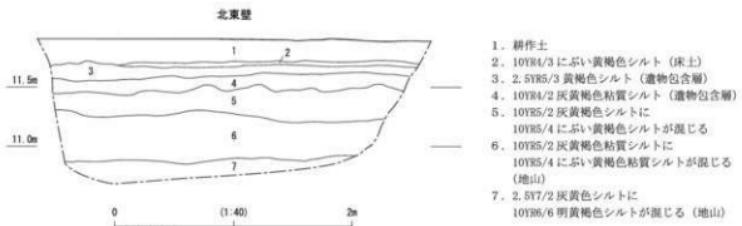


図4 調査区断面図

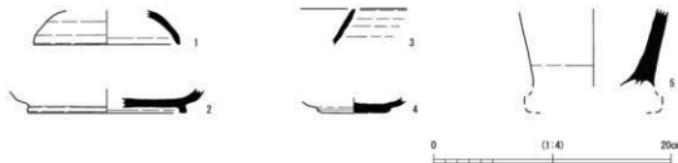


図5 出土遺物



写真1 調査区全景（北東から）



写真2 土層堆積状況（南西から）



写真3 出土遺物①



写真4 出土遺物②

調査報告 2 大塚遺跡 確認調査報告

調査場所 加古川市野口町良野 23 番地の一部

調査期間 令和 3 年 7 月 14 日～7 月 16 日

調査面積 45.8 m²

担当者 山中リュウ・古林舞香

1 調査に至る経緯

加古川市野口町良野 23 番地の一部 (795.93 m²)において店舗建設工事が計画された(図 6)。開発予定地は大塚遺跡に該当しており、また、北側及び東側の隣接地では、平成 23・24 (2011・2012) 年度実施の兵庫県教育委員会による発掘調査において古代から中世にかけての溝状遺構が複数確認されている。これらの遺構が該当地に続いている可能性が極めて高いため、事業者と協議を行い遺構、遺物の内容等を把握するための確認調査を実施することとなった。



図 6 調査位置図

2 調査の結果

工事予定地に調査区を 4 か所設定し確認調査を実施した(図 7)。調査区の基本層序はいずれも同様で、現耕作土直下に地山ブロック混じりの耕作土 (2 層) あるいは床土 (3 層) が堆積し、その下位に地山とみられる黄褐色シルト (19 層) が安定して堆積している状況である。各調査区の地山上面で精査を行った結果、全ての調査区で南北方向に伸びる溝状遺構を合計 10 条 (SD1 ～ 10) 検出した(図 8)。各遺構の規模は、幅 0.2 ～ 0.8 m とまちまちであるが、SD7 のみが幅 2.7 m と大型である。遺物はほとんど出土せず、SD7 上部の床土 (3 層) から須恵器梶の底部(図 9)、須恵器甕の破片が出土したのみである。

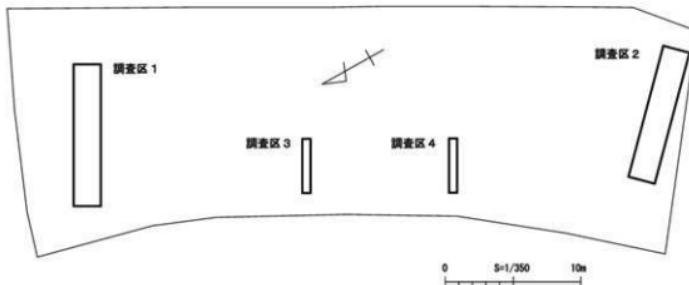


図 7 調査区配置図

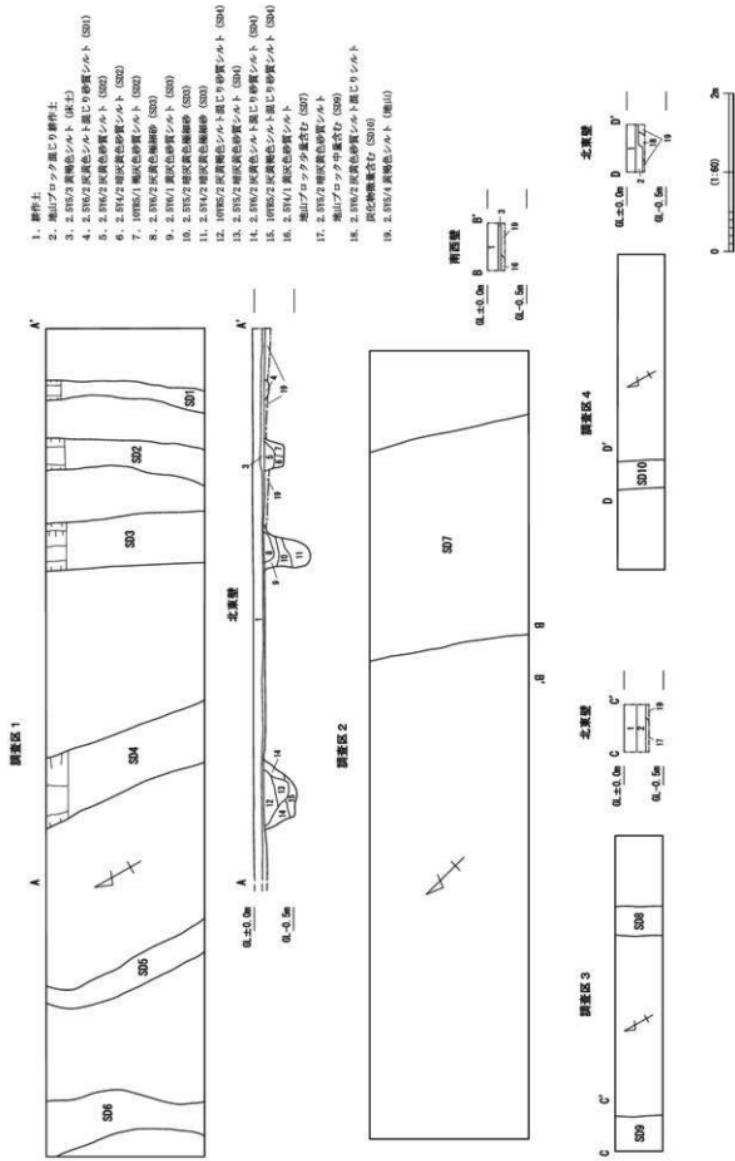


図8 調査区平面図・土層断面図及び土層柱状図

3 まとめ

調査の結果、全ての調査区から合計 10 条の溝状遺構を検出した。遺構はいずれも南北方向に伸びる傾向があり、特に調査地北側の調査区 1 で検出した溝状遺構（SD1 ~ 6）については、そのほとんどが調査地北隣の平成 24 年度発掘調査で確認された溝状遺構の続きとみられる。このことから、隣接地で見られたような奈良時代から鎌倉時代までの溝状遺構を主体とする集落域が今回調査地まで及んでいることが明らかとなった。

(古林)

参考文献

兵庫県教育委員会 2016 『大塚遺跡』兵庫県文化財調査報告第 481 冊



図9 出土遺物



写真5 調査区1 遺構検出状況（南東から）



写真6 調査区1 土層堆積状況及びSD1半裁状況
(南西から)



写真7 調査区1 SD2半裁状況（南西から）



写真8 調査区1 SD3半裁状況（南西から）



写真9 調査区1 SD4半裁状況（南西から）



写真10 調査区2 SD7検出状況（南から）



写真11 調査区3 遺構検出状況（南東から）



写真12 調査区3 土層堆積状況（南西から）



写真13 調査区4 遺構検出状況（南東から）



写真14 調査区4 土層堆積状況（北東から）

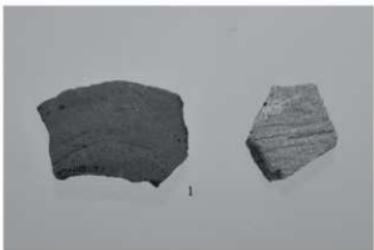


写真15 出土遺物

調査報告3 井ノ口遺跡 確認調査報告

調査場所 加古川市上荘町井ノ口 560番1の一部

調査期間 令和3年9月7・9・10日、10月1日

調査面積 23.55 m²

担当者 古林舞香

1 調査に至る経緯

加古川市上荘町井ノ口 560番1の一部(880m²)において個人住宅建設工事が計画された(図10)。工事予定地は井ノ口遺跡に該当していたため、事業者と協議を行い埋蔵文化財の性格、内容等を確認するための確認調査を実施することになった。



図10 調査位置図

2 調査の結果

令和3年9月7・9・10日に、工事予定地に調査区1~4を設定し確認調査を実施した。その結果、各調査区において遺構・遺物が確認されたため、同年10月1日に、工事によって埋蔵文化財が影響を受ける範囲に調査区5を設定し調査を実施した(図11)。

各調査区の基本層序は概ね同じ様相であり、現耕作土及び床土直下にぶい黄褐色シルト混じり極細砂(4層)、遺物包含層である灰黄褐色シルト(5層)が堆積し、その下位に調査区ごとでシルト及び極細砂を主体とする薄い堆積層を挟み地表下約0.5~0.6mで地山(12層~16層)に到達する。

調査区1・4(図12) 調査区1は、調査地北東端に設定した調査区である。耕作土直下に遺物包含層である灰黄褐色シルト(5層)が堆積しており、本来の床土等が失われている様子であった。調査区4は、調査地中央付近に設定した調査区である。5層が遺物包含層である。両調査区とも遺構は検出されなかった。

調査区2・5(図13) 調査地西側に設定した調査区である。両調査区とも5層が遺物包含層で、3・4層においても少量の遺物が出土した。調査区2では、13・15層上面でピットを1基(SP1)検出した。SP1は長径0.24m、深さ0.15mで、埋土から奈良・平安時代とみられる須恵器小型杯(図14-5)が出土した。調査区2の西北端にやや重複して設定した調査区5では、13層上面において溝状遺構を1基(SD1)確認した。SD1は、最大幅0.48m、深さ0.08mを測り、南側が調査区外へ続くため全体規模は不

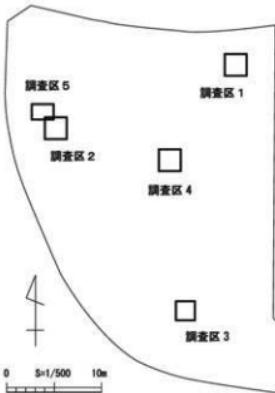


図11 調査区配置図

明である。断面形はごく浅い皿状を呈する。埋土から土師器が出土したが、小片のため時期の特定は困難である。

調査区3 (図12) 調査地南側に設定した調査区である。5・7・8層が遺物包含層である。10層上面でピットを1基 (SP2) 検出した。SP2は、南が調査区東壁にかかり、長径0.35m、深さ0.14mを測る。埋土から時期不明の土師器片が出土した。

遺物包含層出土遺物 (図14) 各調査区の遺物包含層からは、5層を中心には弥生土器、古墳時代から中世までの須恵器・土師器が出土した。奈良・平安時代の土器が主体で、食膳具は、須恵器杯蓋(2・3)、杯A(4)、杯B、杯又は鉢(6)、椀(7)、皿(8・9)などがあり、土師器は殆ど見られない。特殊な器種として須恵器盤又は台付皿(10)がある。貯藏具は須恵器甕(11)、壺(12)、瓶、煮炊具は土師器甕などがある。その他の時代として、弥生土器甕(1)、須恵器捏鉢、土師器羽釜などが見られる。

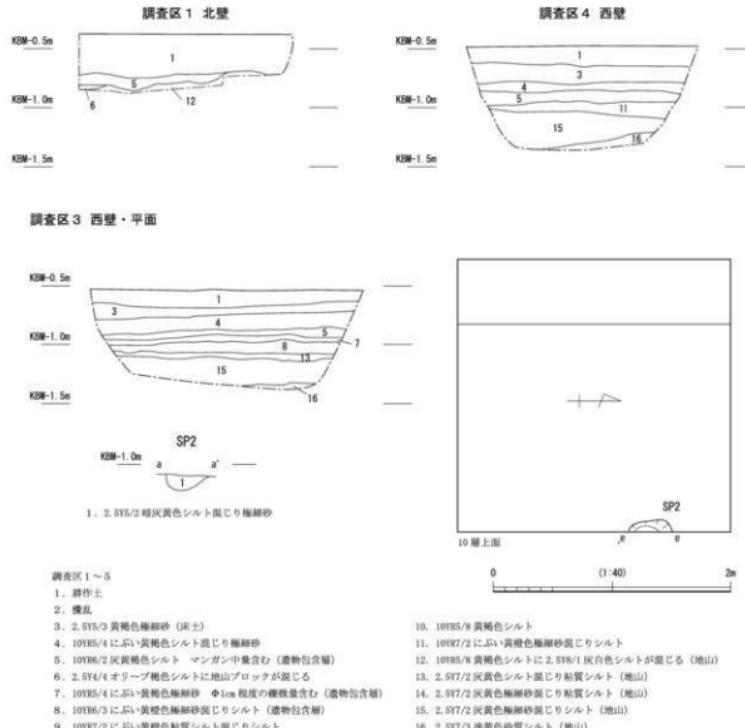
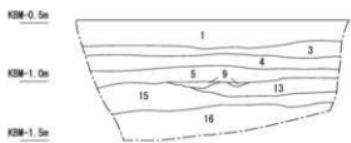
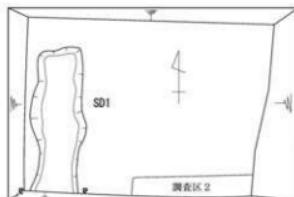
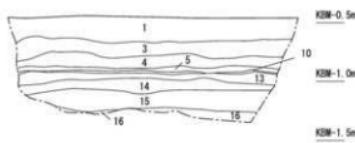


図12 調査区平面図・断面図①

調査区2 西壁



調査区5 北壁



KGM-1.0m
a-a'

1. 2. 5Y5/2暗灰黄色シルト 岩化物微量含む
2. 1層に地山ブロック混じる

SD1

調査区2

13・15層上面

0 (1:40) 2m

図13 調査区平面図・断面図②

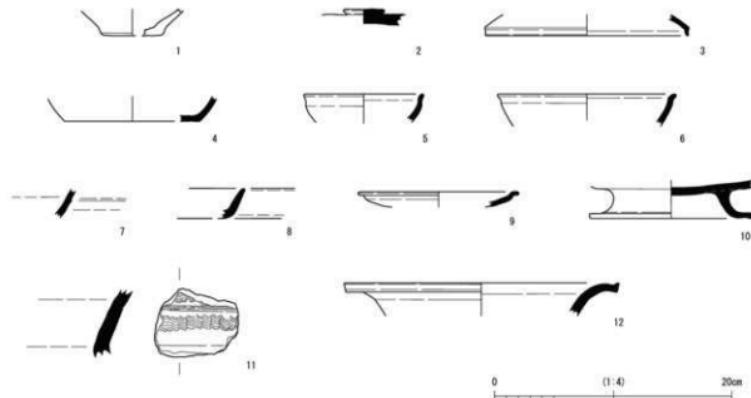


図14 出土遺物

3 まとめ

調査の結果、北西側の調査区2・5、南側の調査区3でピット(SP1・2)、溝状遺構(SD1)を確認した。検出された遺構の詳細時期の特定は困難であるが、出土遺物の特徴から遺物包含層とほぼ同時期とみてよく、奈良・平安時代頃に営まれた集落と考えられる。

調査地は旧加古川が形成した河岸段丘上に位置し、敷地の地表面は平坦に整地されているものの、周辺地形は北から南へ下る緩斜面となっている。包蔵地範囲としては井ノ口遺跡の南端に位置し、すぐ南には段丘崖の高低差を自然の要害として利用したであろう井ノ口城跡が存在する。当該地における遺構の密度は高くないものの、遺跡の南端においても遺構・遺物が確認されていることから、本来の集落範囲は現状より南へ広がるとみられ、隣接する井ノ口城跡にまで及んでいる可能性が考えられる。

(古林)



写真16 調査区1 全景 (東から)

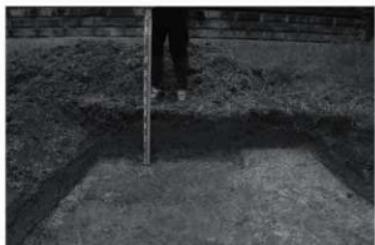


写真17 調査区1 土層堆積状況 (南から)



写真18 調査区2 遺構検出状況 (北から)

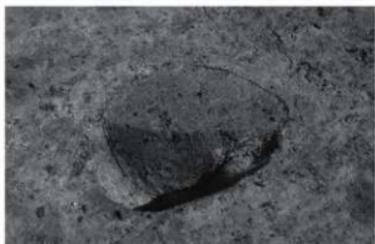


写真19 調査区2 SP1半截状況 (西から)



写真20 調査区2 土層堆積状況 (東から)



写真21 調査区3 全景 (東から)



写真22 調査区3 土層堆積状況（東から）



写真23 調査区4 全景（東から）



写真24 調査区4 土層堆積状況（東から）



写真25 調査区5 遺構検出状況（東から）



写真26 調査区5 SD1 検出状況（南東から）



写真27 調査区5 SD1 完掘状況（南東から）



写真28 調査区5 SD1 土層堆積状況（北から）



写真29 調査区5 土層堆積状況（南から）

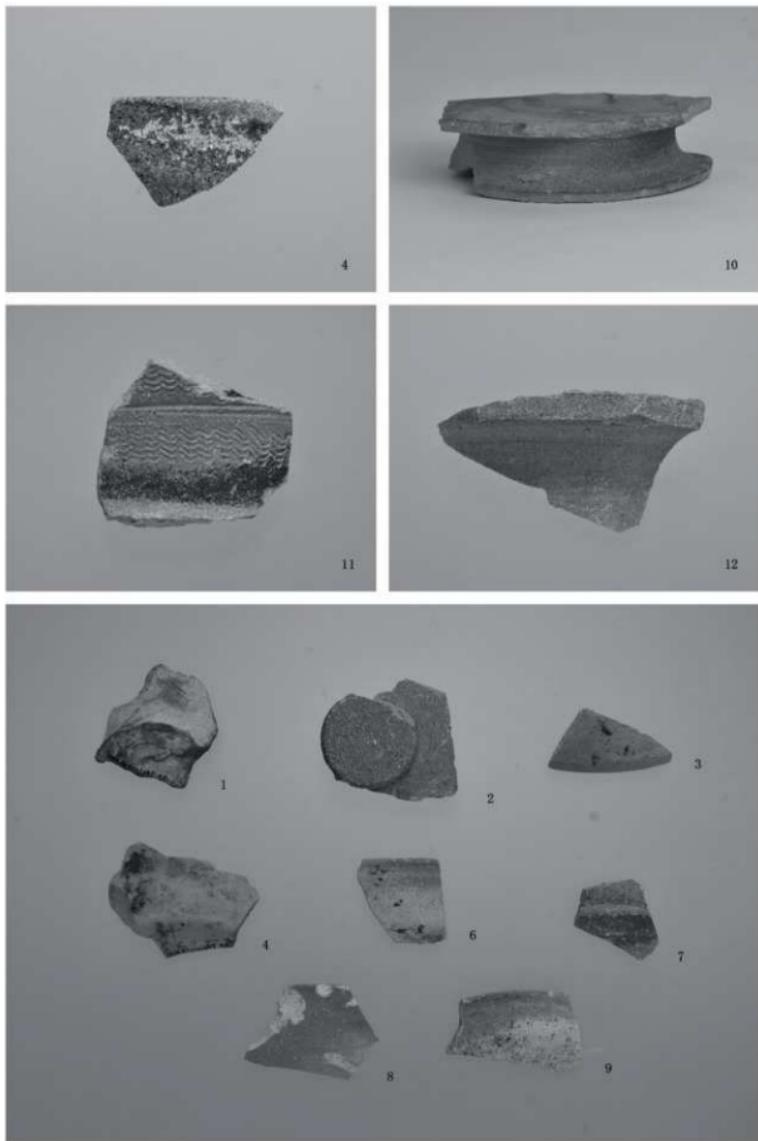


写真 30 出土遺物

調查報告 4 溝之口遺跡 確認調查報告

調査場所 加古川市加古川町講之日 32番15

調査期間 令和3年12月27日

調查面積 4.0 m²

相当者 采尾苦参

1 調査に至る経緯

加古川町溝之口32番15において、住宅建築工事が予定された(図15)。工事予定地は、溝之口遺跡の遺跡範囲内に含まれていたため、事業者と事前協議を行い、遺構・遺物の有無を調べるための確認調査を実施することになった。

2 調査の結果

工事予定地に一辺2m四方の調査区を1か所設

定し確認調査を実施した（図 16）。今回の調査では、近隣の 3 級街区多角点（10B01）からレベル移動を行い、調査における高さの基準とした。

今回調査地における基本層序は、大きく4段階の堆積から成っており、上層から造成土や旧耕作土などの現代層（第1～4層、以下「第I層」とする）、遺物包含層（第5～10層、以下「第II層」とする）、遺構埋土（第11～18層、以下「第III層」とする）、地山（第19層、「第IV層」とする）に大別される（図17）。以下、その詳細について述べる。

第Ⅰ層は、地表下 0.68 m 前後まで堆積する現代層である。第Ⅱ層は、第Ⅰ層直下から地表下 0.92 m 前後まで堆積する遺物包含層である。弥生土器や土師器、須恵器の小片が多く含まれていたものの、上層（第 5 ~ 7 層）には近代以降の陶磁器片なども少量含まれていた。このため、第Ⅱ層は大きく 2 段階の堆積から成っているとみられ、少なくとも第Ⅰ層直下から地表下 0.82 m 前後まで堆積する上層の遺物包含層は近代以降の堆積で、それより下位の遺物包含層（第 8 ~ 10 層）は近世以前に堆積したものと考えられる。第Ⅲ層は、後述するようくに遺構埋土と判断されるもので、弥生土器や土師器、須恵器、瓦質土器が出土した（図 18-1 ~ 7）。第Ⅳ層は、地表下 1.28 m より下位において確認された地山と考えられる極細砂層であろう。

平面的に遺構を検出することはできなかつたが、調査区南西壁沿いに深掘りを行つて下層を確認したところ、地表下 1.28 m 前後より下位において土層が西側から東側へ落ち込んでいる状況が認められた。このような土層の堆積状況などから、第 11 ~ 18 層は溝 (SD1) の構造埋土と判断される。また、十層断面の観察から、



图 15 烟毒位置图

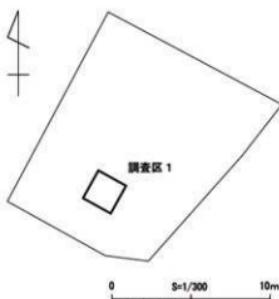


圖 16 雜志版配置圖

南北方向に延びる溝と推測される。層ごとに遺物を取り上げることができないため、詳細な時期比定はできないものの、弥生時代から中世にかけて埋没したものと考えられる。

3 まとめ

確認調査の結果、今回調査地では、地表下 0.68 m から地表下 0.92 m まで遺物包含層が堆積している状況が確認されるとともに、その下位において弥生時代から中世にかけて埋没したとみられる溝が確認された。

なお、今回調査地の西側約 35 m において過去に実施された確認調査でも、地表下 0.55 m 前後において確認された「黒色粘質土層」から多量の弥生土器や須恵器などが出土していることから、周辺には遺構・遺物が密に分布している状況が想定される。

(平尾)

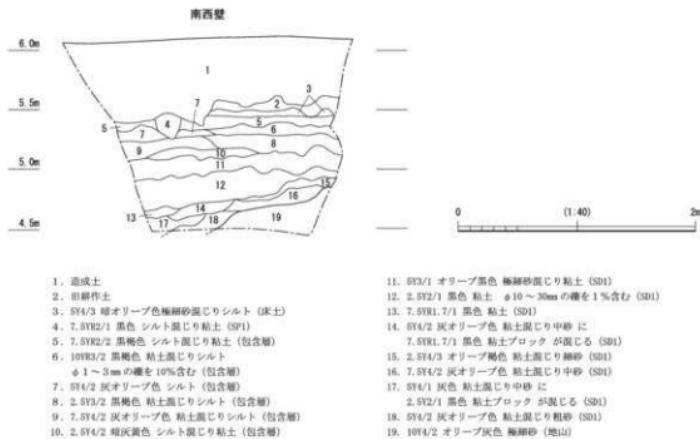


図 17 調査区断面図

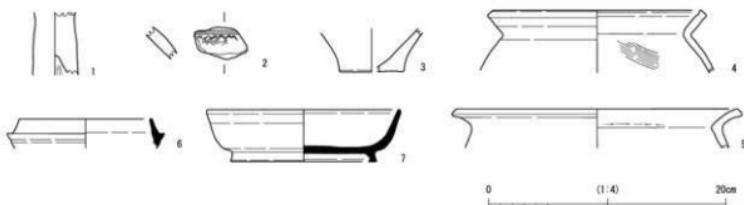


図 18 出土遺物



写真31 調査区1 SD1 検出状況（南東から）



写真32 調査区1 土層堆積状況（北から）



1



2



写真33 出土遺物

調査報告 5 金属製品保存処理 概要報告

はじめに

市内遺跡から出土した遺物は、加古川市教育委員会文化財調査研究センターの収蔵庫において保管・管理を行っている。遺物の多くは、集落遺跡から出土した弥生土器や須恵器などの土器類、古墳から出土した各種埴輪、古代寺院から出土した瓦など、「土」を材質とするものであるが、当然そのなかには金属製品や木製品なども一定数存在する。これらの遺物のうち、金属製品や木製品は外部の影響を受けやすく腐朽しやすいという性質をもっており、恒久的に残していくためには保存処理が必要不可欠となる。

しかし、収蔵庫内の金属製品や木製品のなかには、保存処理がなされていない状態のまま長期間保管されているものがあり、このままで腐朽が進行し、最終的に原形をとどめることができないものが出てくることが危惧された。そこで文化財調査研究センターでは、令和元（2019）年度から国及び県の補助金を活用し、これらの遺物の保存処理を継続的に実施している。

1 金属製品保存処理工程

（1）保存処理の経緯

令和3年度は、株式会社吉田生物研究所に業務委託を行い、令和3（2021）年5月15日から令和4（2022）年3月11日にかけて、鉄製品2点の保存処理を行った。

（2）保存処理作業内容

株式会社吉田生物研究所によって実施された保存処理の作業内容は以下のとおりである。

処理前調査・・・資料の観察、処理前の写真撮影、X線写真撮影

保存処理・・・銹の除去、脱塩処理、樹脂含浸、樹脂コーティング、破片接合、
樹脂補填・補彩

処理後調査・・・処理後の写真撮影、処理後の状態確認、保存処理記録作成

2 保存処理金属製品

（1）カンス塚古墳出土鉄製品（図19、写真34～37）

カンス塚古墳出土鉄製品のうち、鉄刀1点と鉄鏃1点の保存処理を行った。カンス塚古墳は、加古川工業用水ダムの建設に伴い、昭和38（1963）年と昭和41（1966）年に発掘調査が行われ、竪穴式石槨から金製垂飾付耳飾をはじめとする豊富な副葬品が出土している（喜谷1985、竹谷1996）。今回保存処理を行った鉄刀は、調査後に所在がわからなくなっていたもので、平成29（2017）年9月19日に、当時の調査関係者から返却を受けることになったカンス塚古墳出土鉄刀2点のうちのひとつである⁽¹⁾。一方、鉄鏃は、加古川総合文化センター博物館の常設展示において展示されていたものである。なお、この鉄鏃については、すでに詳細な報告がなされているため（川畑・初村2012）、ここでは写真を掲載するにとどめ、以下では鉄刀の概要のみ述べる。

鉄刀はほぼ完形のもので、残存長は73.5cmである。刀身部は反りをもたず、残存長60.0cm以上、最大幅2.8cm、最大厚0.8cmを測る。その一部には鞘のものと考えられる木質や漆膜とみられる有機質が付着している。関部及び茎部の形状は判然としないが、茎部には径0.6cm前後の目釘孔が近接して2孔あけられているようである。関付近には把縁装具や鞘口装具に由来するものと考えられる木質や鹿角とみられる有機質が遺存しており、茎部には一部把木が遺存している。具体的な構造は不明であるものの、把間と把縁もしくは鞘と鞘口は材質を異にした別造りと考えられる。

おわりに

以上、令和3年度に実施した金属製品の保存処理の概要について述べてきた。金属製品などの脆弱遺物は、発掘調査で出土した状態のまま保管しておくと腐朽が進行することが往々にしてある。これらの遺物を後世に残していくため、今後も継続して保存処理を実施していく予定である。

(平尾)

註

- (1) なお、当該鉄刀は、半裁された竹筒に「No. 6」と書かれたメモ用紙とともに収められていた。

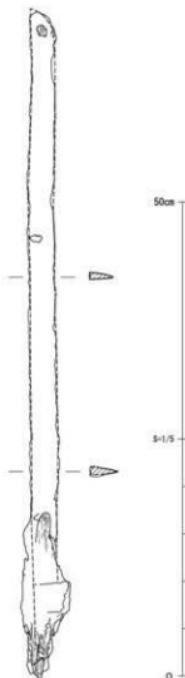


図 19 鉄刀

参考文献

- 川畠 純・初村武寛 2012 「加古川市域の中期古墳出土鉄製品の再検討」『加古川市 西条古墳群 尼塚古墳』 大手前大学史学研究所
喜谷美宜 1985 『加古川市カンス塚古墳発掘調査概要』 加古川市教育委員会
竹谷俊夫 1996 「(50) カンス塚古墳」『加古川市史』第4巻 加古川市



写真 34 鉄刀



写真 35 鉄刀把部



写真 36 鉄櫛



写真 37 鉄櫛 (X線写真)

調査報告6 坂元の石造宝篋印塔 修理工事立会調査報告

調査場所 加古川市野口町坂元 508 番地の2

調査期間 令和3年6月15日

調査対象 兵庫県指定文化財 石造宝篋印塔

担当者 宮本佳典・中山リュウ

1 調査に至る経緯

野口町坂元を通る旧西国街道沿いに所在する石造の宝篋印塔について、塔の傾きを補正するための修理事業が計画された(図20)。この塔は、南北朝時代から室町時代初期頃に造立されたと考えられており、市内最大の石造宝篋印塔として知られている。昭和50(1975)年に兵庫県指定文化財に指定されている。

近年、塔が前面の道路側に傾いてきているとの指摘があり、塔を管理している地元町内会が専門業者に委託して修理を実施することになった。供養塔や墓塔として建てられることの多い宝篋印塔は、地下に遺構を伴う可能性があることから、町内会や工事業者と事前協議を行い、修理の際に立会調査を実施することになった。

2 調査の結果

塔の解体 塔の外面情報については、加古川市史をはじめいくつかの書籍等で知られているが、各部の接続状況などは今回のような積直しを伴う修理の際にしか確認する機会がないため、地中の状況を確認する前の解体時に簡単な観察を行った。

塔は6つの部材に分かれて積まれており、上から相輪、笠、塔身、基礎、基壇と続き、最下段に四つ石がほぼ地中に埋まった状態で置かれている(図21)。

相輪を取り外すと、下部に円柱状の納があり、対応する笠上面には円形の納孔が認められた。続いて笠を取り外すと、塔身の上面に細長い平面長方形の孔が認められたものの、笠の下面には納ではなく、この孔は供養品などを納めるための奉籠孔と考えられる。内部には薄く土が流れ込んでいたのみで、供養品等は確認されなかった。笠と塔身の間には、水平を調整するために噛ませたと考えられる銭貨が

塔身上面の縁を中心に複数認められた。塔身を取り外すと、下面中央に僅かな突起が認められ、それに対応する基礎上面には円形の浅い納孔が認められた。塔身と基礎の間には、先ほどよりも多くの銭貨が挟まっていた。基礎を取り外すと、下の基壇が2分割されて置かれており、合わせ目の中は欠けていて細長い木ノ葉形の孔になっていることが確認できた。この孔の仕上げは粗く、意図的な細工によるものかは不明である。覗き込むと、孔内には多数の銭貨が落とし込まれていた。孔の先端は、

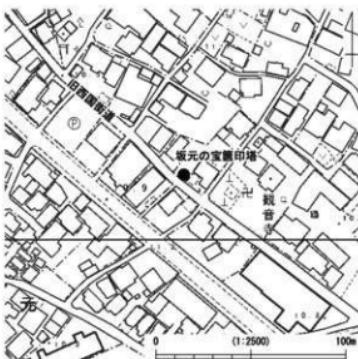


図20 調査位置図

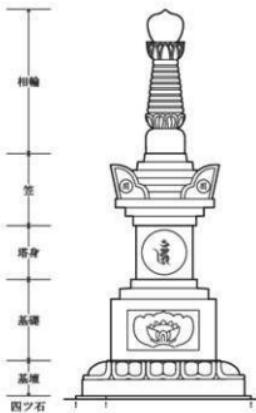


図21 模式図及び各部の名称

西側が反花座まで及んでおり、基礎が載っている状態でも孔の存在を確認する事が可能なため、内部に落とし込まれた銭貨はこの隙間から投げ入れられたものと考えられる。また、基礎と基壇の間に多くの銭貨が挟まっていた。2分割された基壇を取り外すと、下に四ツ石が確認され、内部には土が堆積していた。基壇の裏側を見ると、平坦ではなく浅く窪んでおり、四ツ石の上に置いた状態では、四ツ石内側の土の部分には低いドーム状の空間が生まれることになる。その部分に、基壇の合わせ目の木ノ葉形の孔に投げ込まれた銭貨が残されていた。多くが昭和期の一円や十円硬貨で、平成銘のものも少量認められた。

基壇下の調査 基壇下の銭貨を取り除いた後、四ツ石に囲まれた内側の土の部分について、地中の遺構等を確認するために面的に精査しながら掘り下げを行った（図22）。

表層には、雨水等が流れ込んだ際に流入したと考えられる暗褐色土が薄く堆積し（第2層）、その下には黄褐色土が10cmほど堆積していた（第3層）。この層には、近世以降の陶器や瓦片が含まれていた。第3層の下は、

碎石や栗石が敷き詰められており（第4層）、四ツ石を取り外した後に四ツ石外側の部分も含めて精査したところ、ほぼ同様の堆積をしていることを確認した。

調査の結果、塔下の地中には遺構は確認されず、造立時期とされる南北朝時代や室町時代までさかのぼるような遺物も出土しなかった。

3 まとめ

本塔は、室町時代には小型化するとされる宝鏡印塔の中で、7尺5寸の規模を持つ大型の塔で、近世の地誌『播磨鑑』や名所ガイドブックである『播州名所巡覧図絵』などには、平安時代の女流歌人である和泉式部の供養塔と伝承されていることが紹介されるなど、地域の特色ある文化財として大切に残してきたものである。

今回の調査では、普段は確認することのできない各部の接続部分の観察を行い、塔身上面に作られた奉籠孔の存在などを確かめることができた。

一方、地中の状況については、遺構は確認されず、四ツ石に囲まれた内側の土からは近世以降のものと考えられる陶器が出土した。このことから、この塔は近世以降に積み直しや場所替えが行われている可能性が高いといえる。塔は現在、間知石積の方形台の上に建てられており、地中確認の際に検出した第4層の碎石や栗石は、この方形台の裏込め材と考えられ、塔がこの地に建てられる際に、方形台も同時に造られた可能性がある。

なお、地中の確認後は、この方形台上面に鉄筋コンクリートの基礎を設け、その上に四ツ石等を順次据え直して塔の傾きを修正した。塔身については、以前から種子のウーン（譽）が南を向く誤った積み方であることが指摘されており、これが傾きの一因ともなっていたため、今回の修理で本来の配置に戻すことを兵庫県教育委員会文化財課と協議したが、指定文化財は現状回復が原則との結論となり、誤った積み方のまま旧状に復元をした。

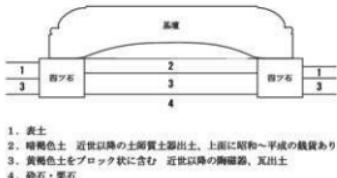


図22 地下の堆積状況略図

(山中)



写真 38 相輪の枠



写真 39 塔身上面の奉籠孔



写真 40 基礎上面の枘孔



写真 41 基壇合わせ目の孔



写真 42 地中の様子 (第3層上面)



写真 43 地中の様子 (第4層上面)



写真 44 塔下の方形台



写真 45 出土遺物

第2章 文化財の保護と活用

1 指定・登録文化財

令和4（2022）年3月31日時点の指定・登録文化財は、国指定23件（国宝2件、重要文化財21件）39点、県指定33件55点、市指定70件1,426点、国登録9箇所37件である（表2）。

表2 指定・登録文化財種別・件数一覧

区分	種別	箇所数・件数	計	
国指定	国宝	建造物 2件	2件	23件
	建造物	4件		
	絵画	5件		
	彫刻	6件		
	工芸品	5件		
	書跡	1件		
	建造物	18件		
県指定	絵画	3件		33件
	彫刻	7件		
	工芸品	3件		
	書跡	1件		
	史跡	1件		
	建造物	4件		
市指定	絵画	10件		70件
	彫刻	16件		
	工芸品	9件		
	書跡・典籍	6件		
	考古資料	16件		
	歴史史料	1件		
	無形文化財	1件		
	民俗資料	2件		
	史跡	4件		
	天然記念物	1件		
	建造物	8箇所36件		
国登録	記念物	1件		9箇所37件

（1）市指定文化財の指定

文化財審議委員会において諮問し、答申を受けた「木造金剛界大日如来坐像」の1件について、新たに加古川市指定文化財に指定した。

木造金剛界大日如来坐像（巻頭図版1）

名称及び数量 木造金剛界大日如来坐像 1幅

指定分類 彫刻

時代 南北朝時代（14世紀）

所在地 加古川市平荘町山角466番地の1（報恩寺）

所有者 報恩寺

指定年月日 令和4年3月10日



木造金剛界大日如来坐像

指定理由 本像は、報恩寺の本堂向かって右の脇壇の簡素な木造厨子の中に安置されている智顗印を結ぶ金剛界大日如来像である。褐色と修理による変色により像容を損なっているところはあるが、端正な面相と少し重厚感のある自然な肉づきをした体軀の表現から、中世の優れた仏像であることがわかる。

材質はヒノキ材或いはヒバ材のようで、当初の彩色は、肉身部を金色とし、頭髪部は濃い瑠璃色で、衣部は切金で華やかな模様を施していたようである。光背は後補で、台座は請花部から上の大部分が当時のものである。

像底から内部構造を確認することができる。体幹部を前後に割矧いで内削りをした割矧ぎ造りで、頭部は体幹部上部から割り離し、両耳の後ろの線で前後矧ぎした割首^{こうしゅん}で、玉眼を嵌入している。左右は肩部から外を各縱一材で、前は膝部から前を横一材で彫り出している。

この仏像についての詳しい記録は伝わっていないが、蓮華座下の箱台座の内側に慶安元（1648）年の再調墨書がある。

姫路市の円教寺の金剛薩埵坐像（県指定文化財）や如意輪寺の如意輪觀音菩薩坐像（市指定文化財）と面相をはじめとした像容が酷似し、技法及び作風が共通していることから、作者については、これらの仏像を造像した東寺大仏師の康俊によるものと考えられる。

報恩寺は、和銅6（713）年開創、建治元（1275）年中興と伝え、県指定文化財となっている南北朝時代の古文書や石造品をはじめ、中世の多くの文化財を伝える真言宗の古刹で、同時代に康俊を庇護した播磨守護赤松氏と関係が深かった。

本像は、南北朝時代の優れた仏像であり、播磨地方にいくつかの作品が遺っている東寺大仏師康俊の作と考えられるもので、彫刻史上意義があるものである。

2 市内遺跡事業（国庫補助事業）

国の文化財補助金事業として、市内遺跡などについて埋蔵文化財の記録の作成、保存に必要な資料を得るために発掘調査及び出土品の資料整理などを行った。内容は、開発に伴う本発掘調査、確認調査、試掘調査、分布調査である。また、市内遺跡出土金属製品の保存処理を行ったほか、遺跡分布地図改訂に伴い『加古川市遺跡分布地図－第4版－』を刊行した。事業費 6,500 千円（国費 3,250 千円、県費 1,625 千円）。

3 指定文化財保存管理補助事業

指定文化財である「鶴林寺の指定文化財」（鶴林寺）、「宮山遺跡」（上西条町内会）、「北大塚古墳」（西之山町内会）、「築山の櫛」（国包伊勢講）の指定文化財保存管理事業に対して補助を行った。また、県補助事業である坂元石造宝鏡印塔修繕事業に対して補助を行った。修理工事の詳細は、第1章 調査研究「調査報告書 6 坂元の石造宝鏡印塔 修理工事立会調査報告」で報告している。事業費 926 千円（補助額 415 千円）。

4 鶴林寺防災設備保守点検等事業（県費補助事業）

県費補助事業として、指定文化財保守管理のための自動火災報知機・消火栓設備の保守点検等事業を鶴林寺が事業主体となって行った。事業費 414 千円（県費 140 千円）。

5 文化財説明板及び標柱の設置

市内所在の文化財の普及公開のため、文化財の説明板や標柱の設置を促進している。令和3（2021）年度は、以下のとおり説明板の立替え（貼替えを含む5件）、標柱の立替え（2件）を行った。また、中西庵寺跡説明板の立直し作業を行った。令和4年3月末時点での設置状況は、説明板178件、標柱164件である。

説明板の立替え 「砂部遺跡」、「溝之口遺跡」、「神吉中学校の石棺」、「里觀音堂の石棺」、「ひれ墓古墳（日岡陵）」

標柱の立替え 「手末構居跡」、「大藤山3号墳」

6 県指定文化財本岡家住宅の管理、公開・活用

（1）施設管理

江戸時代前期の民家建築である本岡家住宅は、平成10（1998）年に所在地であった八幡町下村から加古川市立少年自然の家敷地内（東神吉町天下原）に移築保存され、現在は加古川市教育委員会が管理を行っている。毎年、清掃及び見学案内などの施設管理を加古川市シルバー人材センターに委託して実施しているほか、消防設備保守点検を専門業者に委託して実施している。

令和3年度は、鳥害や経年劣化による茅の抜け落ちで茅葺屋根に部分的な損傷が見られていたため、屋根の損傷部分に差し茅を施す小修理を加古川市建設部營繕課に依頼して実施した。また、少年自然の家敷地内に設置している案内看板の貼替えを専門業者に委託して実施した。



茅葺屋根の小修理状況



小修理完了後の本岡家住宅

（2）公開及び活用

本岡家住宅の見学は、事前に申込みを受けたうえで、水曜日の午前10時と午後2時、日曜日の午後2時に見学者を受け入れている。また、少年自然の家の無料散策日にも併せて公開している。

定期的な公開としては、毎年5月5日に「こどもの日特別公開」を行っている。また、10月から11月にかけて設定されている「ひょうごヘリテージマンス」に合わせて「秋の特別公開」を行っている。令和3年度は、「こどもの日特別公開」は、新型コロナウイルスによる緊急事態宣言の発出に伴い開催を中止した。「秋の特別公開」は、11月24日から28日まで及び30日に実施した。年間の本岡家住宅利用者数は、表3のとおりである。前年度比は574人の増であった。

表3 本岡家住宅月別利用者数一覧

利用人数(人)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0	0	2	188	0	0	0	0	286	132	0	64	136	808

7 企画展「発掘された加古川～近年発掘された加古川市の遺跡～」の開催

市民に地域の歴史や文化財を知ってもらうための文化財公開事業として、近年行った市内遺跡の発掘調査成果を紹介する企画展を加古川総合文化センターと共催して行った。

期　間：令和3年7月24日～令和4年3月27日

開催場所：加古川総合文化センター博物館

入館者数：合計4,581人

展示資料：溝之口遺跡出土遺物（平成27（2015）年度調査）

美乃利遺跡出土遺物（平成27年度調査）

上村池遺跡出土遺物（平成28（2016）・平成29（2017）年度調査）

石町中世墓出土遺物（平成29年度調査）



企画展解説シート



企画展チラシ



開催状況

8 加古川市文化財講座の開催

市民に加古川地域の歴史や文化財について理解を深めてもらい、文化財保護意識の高揚を図るため、毎年秋季に文化財講座を開催している。令和3年度の開催状況は、以下のとおりである。

第1回

日 時：10月23日（土）午後2時～午後4時

場 所：加古川市立青少年女性センター 大会議室

講 師：狭川真一氏（大阪大谷大学教授）

演 題：「加古川の中世お墓事情」

参加者：71名



開催状況

第2回

日 時：11月 6日（土） 午後2時～午後4時
場 所：加古川市立青少年女性センター 大会議室
講 師：森内秀造氏（元兵庫県立考古博物館学芸員）
演 題：「播磨の平城京出張所と加古川」
参加者：71名



第3回

日 時：11月 20日（土） 午後2時～午後4時
場 所：加古川市立青少年女性センター 大会議室
講 師：初村武寛氏（元興寺文化財研究所研究員）
演 題：「古墳時代の加古川」
参加者：78名



各開催状況

9 発掘調査現地説明会の開催

農業基盤整備事業の雁戸戸地区は場整備事業に伴う上村池遺跡（八幡町中西条）の発掘調査において、令和4年1月29日に現地説明会を開催した。地元住民をはじめとして約200名の参加があった。

現地説明会は発掘調査中の遺跡を見学できる唯一の機会であるとともに、地域の歴史や文化財について知ってもらう絶好の場でもあるため、今後も可能な限り開催していきたい。



開催状況

10 『文化財ニュース』の発行

市内文化財の状況を伝えるとともに市民の文化財保護意識の高揚を図るため、年に1度『文化財ニュース』を発行している。令和3年度は第65号を発行し、市内小中学校をはじめとした各関係機関に配布を行った。なお、バックナンバーを含めてこれまで発行してきた『文化財ニュース』は、加古川市のホームページから閲覧可能である。



文化財ニュース
No.65

11 『文化財解説シート』の発行

平成21（2009）年度から平成23（2011）年度にかけての緊急雇用対策文化財資料整理事業の一環で作成していた市内文化財の個別の解説シートである『文化財解説シート』については、平成29年度から作成を再開した。加古川市立中央図書館2階で配布しているほか、加古川市のホームページから閲覧可能である。令和3年度は以下の『文化財解説シート』を発行した。

通番29号（工芸品1）円照寺の銅鐘

通番30号（史跡3・考古資料4）石井の清水、石製露盤及び利

通番31号（石造美術21）坂元の宝篋印塔

通番32号（石造美術22）益氣神社の五輪塔、宝篋印塔、宝塔



令和3年度発行『文化財解説シート』

12 文化財関係団体との連携

「加古川市文化財保護協会」、「加古川文化遺産活性化実行委員会」、「加古川市文化財ガイドボランティア」など、文化財の保護又は活用を行っている諸団体の活動に対し、必要に応じて協力している。

令和3年度は、加古川文化遺産活性化実行委員会の推進する伝統文化親子教室事業（国庫補助事業）に対して協力をした。内容は、市内文化財の保存関係団体への補助である。各関係団体は、以下のとおりである。

加古川西部茶道会、上之庄神社崇敬会、下西条八幡神社神事獅子舞保存会、下村祭保存会、清保会、宗佐秋祭り保存会、日本の伝統いけばな加古川会、野村祭り保存会、俳句西加古川会、平岡五色百人一首会、福谷神社神事保存会、福留日岡神社神事保存会、船町屋台保存会、萬代能楽塾、宮前獅子舞保存会（五十音順）

13 寄贈資料等の受入れ

令和3年度は、表4のとおり資料の寄贈や返却を受けた。

表4 寄贈資料等の受入れ一覧

番号	区分	受入日	依頼者	資料の名称	数量	文書番号
1	資料返却	7月 20 日	神戸市立博物館	弁天池E地区採集石器	2点	加教文第 982 号
2	資料返却	10月 8 日	神戸市立博物館	岸道路出土縄文時代晚期の土器片	1点	加教文第 1543 号
3	資料返却	10月 18 日	太子町教育委員会	池尻 2 号墳開甌資料	一式	
4	資料返却	令和4年3月3日	太子町教育委員会	市内遺跡出土資料	一括	加教文第 1784 号
				池尻 2 号墳開甌資料	一式	

14 資料の貸出し、写真資料の貸出し及び掲載承諾

令和3年度は、表5のとおり資料の貸出し、写真資料の貸出し及び掲載を承諾した。

表5 資料貸出し、写真資料の貸出し及び掲載承諾一覧

番号	区分	期間	資料の名称	数量	依頼者	目的
1	貸出し	4月 1 日 令和4年3月31日	溝之口遺跡出土弥生土器	6点	明石市立文化博物館	常設展での展示
2	貸出し	4月 1 日 ~ 令和4年3月31日	行者塚古墳発掘調査図面・写真 行者塚古墳出土埴輪	一式 一括	大手前大学史学 研究所	行者塚古墳発掘調査出土資料 の整理

番号	区分	期間	資料の名称	数量	依頼者	目的
3	掲載承諾	5月 31 日	円周寺梵鐘写真	3点	個人	『ほうふ日報』(防府日報株式会社)への掲載
4	掲載承諾	6月 7 日	行者塚古墳出土埴輪写真	2点	東播磨地域史懇話会	加古川市のまちづくり推進事業「西条古墳群出土遺物を活かした地域史セミナー活動」において作成中の普及啓発用の小冊子において使用
			行者塚古墳出土埴輪写真	3点		
			行者塚古墳出土金具写真	1点		
			行者塚古墳出土巴形銅鏡写真	1点		
			行者塚古墳出土灰陶土器・高杯と土製品写真	1点		
			人塚古墳開連写真	3点		
5	掲載承諾	6月 8 日	人塚古墳開連写真	1点	神戸新聞総合印刷	樋本誠一ほか著『兵庫県の古代遺跡』(担津・播磨)への掲載
			行者塚古墳開連写真	3点		
6	掲載承諾	8月 11 日	伝・鶴瓶塚古墳出土三角錘神獣鏡写真	1点	東播磨地域史懇話会	加古川市のまちづくり推進事業「西条古墳群出土遺物を活かした地域史セミナー活動」において作成中の普及啓発用の小冊子において使用
			南大塚古墳出土三角錘神獣鏡(復元品)写真	1点		
			升田山 15 号墳出土青葉写真	1点		
			行者塚古墳模様写真	1点		
7	掲載承諾	9月 21 日	西造り出し復原画	1点	筑摩書房	松本武彦著『はじめての考古学』への掲載
8	掲載承諾	9月 22 日	行者塚古墳出土金具写真	1点	ミネルヴァ書房	青木敬ほか著『考古学概論—初学者のための基礎理論』への転載
9	掲載承諾	9月 29 日	行者塚古墳開連写真	1点	兵庫県立考古博物館	『関西古墳サミット』での古墳紹介パネルへ掲載
10	貸出し・掲載承諾	11月 17 日	行者塚古墳開連写真	3点	赤穂市教育委員会	特別展「播磨の前方後円墳～古墳からみた王の時代～」での展示及び関連印刷物への掲載
			行者塚古墳西造り出し出土灰陶土器・高杯と土製品写真	1点		
			里古墳開連写真	2点		
			里古墳出土文画帯神獣鏡写真	1点		
		令和4年1月6日 3月 28 日	北大塚古墳出土埴輪	6点		
			行者塚古墳出土埴輪	4点		
			行者塚古墳出土ミニチュア土製品	10点		
			行者塚古墳出土土師器	2点		
11	掲載承諾	12月 15 日	鶴林寺本堂写真	1点	加古川市ウェルネス協会	ABEMA-TV 斜板チャンネル「第1回 ABEMA 節第トーナメント」における加古川市紹介ビデオへの使用
			講之口道跡出土石臼写真	1点		
12	貸出し・掲載承諾	12月 27 日	講之口道跡出土石臼写真	1点	たつの市教育委員会	特別展「斎生人の道から—新宮宮内遺跡出土石器から—」での展示及び解説図鑑への掲載
		令和4年1月17日 ~3月 21 日	講之口道跡出土石臼	1点		
13	掲載承諾	令和4年1月6日	行者塚古墳出土灰陶土器・高杯と土製品写真	1点	和歌山県教育委員会	公開シンポジウム「大王墓と紀伊の古長墓」での使用及びネット上への公開
14	掲載承諾	令和4年2月3日	東草叢古墳出土三角錘神獣鏡写真	1点	兵庫県立考古博物館	『兵庫県立考古博物館研究紀要第15号』への掲載及びネット上への公開
			伝・鶴瓶塚古墳出土三角錘神獣鏡写真	1点		
15	貸出し・掲載承諾	令和4年2月 16 日	南大塚古墳出土三角錘神獣鏡写真	1点	兵庫県立考古博物館	特別展「弥生集落船生－大中遺跡とその時代－」への展示及び関連印刷物への掲載
			美乃利遺跡開連写真	4点		
		令和4年4月 1 日 ~7月 24 日	手末遺跡開連写真	2点		
			長慶寺 1 号墳出土内花文埴輪	1点		
16	貸出し	令和4年3月 1 日 令和5年3月 31 日	美乃利遺跡出土土器	7点	大手前大学史学研究室	行者塚古墳発掘調査出土資料の整理
			行者塚古墳北東造り出し出土埴輪	一括		
			行者塚古墳出土円筒埴輪片	20点		

番号	区分	期間	資料の名称	数量	依頼者	目的
17	掲載承諾	令和4年3月11日	円福寺宝篋印塔写真	1点	有限会社編集工房 ベンハウス	雑誌『大阪栄報』「新・ライバルの日本史 赤松満祐・足利義教」への掲載
18	掲載承諾	令和4年3月16日	行者塚古墳開闢写真 行者塚古墳墳丘測量図	3点 1点	日本文芸社	青木敬著『古墳図鑑』への掲載

15 資料調査などの受入れ

令和3年度は、表6のとおり資料調査などを受入れた。

表6 資料調査などの受入れ一覧

番号	年月日	調査者	所属	資料		目的
				遺跡	遺物	
1	7月16日	個人	加西市教育委員会	行者塚古墳	京形土器等土師器 土製品	出土資料類例調査
2	8月17日～9月3日	個人	大手前大学史学研究所	行者塚古墳	埴輪 土師器 土製品	学術研究
3	9月9日	個人	京都大学大学院	池尻2号墳	鉄針 鍼	卒業論文執筆
4	10月29日	個人	赤穂市教育委員会	北大塚古墳	円筒埴輪 形象埴輪	特別展準備
				行者塚古墳	土師器 土製品	
				里古墳	円筒埴輪 盾形埴輪 円筒埴輪	
				講之口遺跡	石杵 石撲	
				池尻2号墳	鐵劍 刀劍	
5	11月15日	個人	たつの市教育委員会	長慶寺山1号墳	内行花文鏡	特別展準備
				カニス塚古墳	紙石	
				美乃利遺跡	鐵石 台石	
				手末遺跡	微小鐵片 弥生土器	
6	12月15日	個人	兵庫県立考古博物館	水丘舞香	水丘公民館	論文執筆
				水丘舞香	日岡山古墳群の現地案内	
				平尾英希	日岡山古墳群の現地案内	
				平尾英希	企画展「発掘された加古川」展示解説	
				加古川総合文化センター	企画展「発掘された加古川」ギャラリートーク	
7	令和4年1月26日	個人	兵庫県立考古博物館	水丘舞香	日岡山古墳群の現地案内	特別展準備
				平尾英希	日岡山古墳群の現地案内	
				平尾英希	企画展「発掘された加古川」展示解説	
				加古川総合文化センター	企画展「発掘された加古川」ギャラリートーク	

16 講師の派遣など

市民に地域の歴史や文化財についての理解を深めてもらい、また、文化財保護意識の高揚につながるよう、文化財に係る講演会、見学会などの事業に対して講師の派遣などを行っている。令和3年度は、表7のとおり講師の派遣などを行った。

表7 講師派遣など一覧

番号	年月日	派遣組員	派遣先	内容
1	6月1日	宮本佳典	東神吉小学校	郊外学習での平佐湖古墳群現地解説
2	9月16日	平尾英希	平岡文化財研究会	企画展「発掘された加古川」展示解説
3	11月12日	山中リュウ	水丘公民館	日岡山古墳群の現地案内
4	12月11日	古林舞香	水丘公民館	日岡山古墳群の現地案内
5	令和4年1月15日	平尾英希	水丘公民館	企画展「発掘された加古川」展示解説
6	令和4年3月12日	平尾英希	加古川総合文化センター	企画展「発掘された加古川」ギャラリートーク

(古林)

第3章 文化財審議委員会

1 委員

「加古川市文化財の保護に関する条例」に基づき、文化財の保存及び活用について審議するための附属機関として文化財審議委員会を設置している。令和3（2021）年度における各委員の氏名、主な専門分野、所属は以下のとおりである。

委員長	茂渡俊慶	仏教文化、地域史	鶴林寺住職
副委員長	金子 哲	歴史学、中世史	兵庫大学共通教育機構教授
委員	上月昭信	考古学、郷土史	兵庫県文化財保護指導委員
委員	友久伸子	考古学、郷土史	日本考古学协会会员
委員	中久保辰夫	考古学、記念物	京都橘大学文学部准教授
委員	岡田 功	郷土史、歴史資料	加古川史学会
委員	莊所直哉	建築学、建造物	明石工業高等専門学校建築学科准教授
委員	藤原喜美子	民俗行事、民俗資料	流通科学大学人間社会学部准教授

2 会議

第1回　日 時 令和3年6月23日（水）午後2時から3時30分まで

場 所 青少年女性センター301会議室

出席者 茂渡委員長、金子副委員長、上月委員、友久委員、岡田委員、莊所委員、藤原委員

内 容

- 令和2年度文化財関係事業及び決算について
- 令和3年度文化財関係事業及び予算について
- 埋蔵文化財発掘調査（本発掘調査及び試掘調査）状況について
 - ・西田池南遺跡発掘調査（雁戸井地区ほ場整備事業関係）
 - ・八ツ塚古墳群試掘調査（みとろフルーツパーク整備事業関係）
- その他、指定文化財候補及び文化財行政に係る意見交換など

第2回　日 時 令和3年11月22日（月）午後2時から3時40分まで

場 所 加古川市役所新館8階教育委員室

出席者 茂渡委員長、金子副委員長、上月委員、友久委員、中久保委員、岡田委員、莊所委員、藤原委員

内 容

- 令和3年度加古川市指定文化財候補について
 - ・木造金剛界大日如来坐像（報恩寺）
 - ・その他
- 文化財関係事業について
 - ・令和3年度上半期を中心とした事業等の進捗状況について
 - ・文化財講座について
 - ・本岡家住宅「秋の特別公開」について
 - ・企画展「発掘された加古川」について

- ・今後の埋蔵文化財関連の活動について
 - ・令和3年度上半期事務報告について
- 指定文化財の状況について
- ・市指定文化財に関すること
 - ・国指定・登録文化財及び県指定文化財に関すること

第3回　日 時 令和4年1月20日（木）午後2時から4時30分まで
 場 所 報恩寺（現地調査）、上村池遺跡（視察）、勤労会館101会議室（会議）
 出席者 茂渡委員長、金子副委員長、上月委員、友久委員、中久保委員、岡田委員、藤原委員
 内 容 ○市指定有形文化財指定申請に係る審議について

- ・木造金剛界大日如来坐像 1幅（報恩寺所蔵、新規指定）

 ○市指定有形文化財候補現地調査

- ・木造金剛界大日如来坐像 1幅（報恩寺所蔵）

 ○報恩寺所蔵文化財視察
 ○上村池遺跡（八幡町中西条）発掘調査状況視察
 ○その他、文化財及び文化財行政に係る意見交換など

(吉林)



木造金剛界大日如来坐像 観察状況



報恩寺所蔵文化財 視察状況

第4章 文化財関係の事務処理

1 指定・登録文化財事務

(1) 指定文化財所在場所変更届出

令和3（2021）年度は、表8のとおり指定文化財の所在場所変更届出の処理を行った。

表8 登録文化財現状変更届出一覧

番号	名称	員数	区分	変更の目的	変更前所在地	変更後所在地	期間
1	木造聖徳太子立像	1頭	県指定	千四百年御誕忌記念特別展「聖徳太子一日出づる处の天子」での展示	加古川町北在家 424(鶴林寺)	大阪府大阪市天王寺区茶臼山町1-82(大阪市立美術館) 東京都港区赤坂9-7-4 東京ミッドタウン ガレリア3階 (サンリーラーニング)	8月9日～ 11月10日
2	縹糸胸取金茶碗二枚胸具足	1頭	市指定	特別陳列「脇板家ゆかりの武具と龍野武者行列」での展示	平岡町西谷18	兵庫県たつの市市立龍野町上殿城128-3 (たつの市立龍野歴史文化資料館)	令和4年3月29日～ 5月25日

2 埋蔵文化財事務

(1) 埋蔵文化財包蔵地の照会

令和3年度における埋蔵文化財包蔵地の照会件数は2,892件（昨年度比+142件）であった。その内訳は、事業者による計画前の照会が2,470件、農地転用等に関する事前の照会が277件、建設予定地に関する事前合議等が62件、開発事業に関する事前協議等が83件である。

(2) 文化財保護法に基づく埋蔵文化財発掘届出・通知

令和3年度における文化財保護法第93・94条に基づく埋蔵文化財発掘届出・通知の処理件数は、130件（昨年度比+15件）であった（表9）。このうち、第93条に基づく発掘届出は123件、第94条に基づく発掘通知は7件である。工事目的の内訳は、学校1件、住宅22件、個人住宅45件、店舗2件、その他建物12件、宅地造成10件、公園造成2件、水道・ガス・電気24件、農業基盤整備2件、その他開発10件である。

表9 埋蔵文化財発掘届出・通知一覧

番号	遺跡	工事の目的	所在地	届出者	指導事項	調査期間 ^{a)}	文書番号
1	天下原古墳 古墳	その他開発	東神吉町天下原83、86-1	事業者	慎重工事		加教文第42号
2	西条遺跡 集落跡 國文～平安	宅地造成	神野町西条1154-1	事業者	工事立会	4月20日	加教文第43号
3	西条遺跡 集落跡 國文～平安	宅地造成	神野町西条1051-3	事業者	工事立会	4月27日	加教文第44号
4	聖陵山古墳 古墳	水道・ガス・電気	野口町長砂751-1地先	事業者	工事立会		加教文第55号
5	野口廢寺 社寺跡 奈良	水道・ガス・電気	野口町野口332-7地先	事業者	慎重工事		加教文第145号

番号	遺跡	工事の目的	所在地	届出者	指導事項	調査期間 ^{※1}	文書番号
6	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	個人住宅	加古川町美乃利 149-1	個人	慎重工事		加教文第 176 号
7	岸城跡 中世	宅地造成	西神吉町岸 691-1 外	事業者	発掘調査		加教文第 177 号
8	加古川城跡 城館跡 中世	水道・ガス・電気	加古川町本町 43-8 地先	事業者	慎重工事		加教文第 189 号
9	奥新田遺跡 散布地 縄文	公園造成	平荘町中山地内	加古川市	慎重工事	5月 26 日～ 6月 29 日	加教文第 194 号
10	尾上構居跡 城館跡 中世	個人住宅	尾上町長田 319	個人	慎重工事		加教文第 197 号
11	聖陵山古墳 古墳 古墳	住宅	野口町長砂 757-1	事業者	慎重工事	5月 18 日	加教文第 218 号
12	尾上遺跡 集落跡 弥生・古墳	その他建物	尾上町長田 113-1 の一部外	個人	慎重工事		加教文第 279 号
13	長畠遺跡 集落跡 弥生	個人住宅	平岡町山之上 630-1	個人	慎重工事	5月 25 日	加教文第 396 号
14	東神吉遺跡 集落跡 弥生・古墳	個人住宅	東神吉町砂部 354-47	個人	慎重工事	7月 22 日	加教文第 377 号
15	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	個人住宅	加古川町溝之口 76-11	個人	慎重工事		加教文第 397 号
16	下村遺跡 集落跡 弥生～平安	個人住宅	八幡町上西条 1-1	個人	慎重工事		加教文第 398 号
17	浜の宮遺跡 集落跡 弥生・古墳	その他開発	尾上町口里 475-2 外	事業者	慎重工事	6月 1・2 日	加教文第 459 号
18	中西寺跡 社寺跡 奈良	水道・ガス・電気	西神吉町中西 244-12 外	事業者	工事立会		加教文第 477 号
19	中津構居跡 城館跡 中世	住宅	加古川町中津 125-10	事業者	慎重工事	6月 8 日	加教文第 519 号
20	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	住宅	加古川町溝之口 223-24	事業者	慎重工事		加教文第 551 号
21	尾上構居跡 城館跡 中世	個人住宅	尾上町長田 479	個人	慎重工事		加教文第 552 号
22	升田遺跡 集落跡 奈良	その他開発	東神吉町升田 1217-1	事業者	慎重工事		加教文第 553 号
23	尾上構居跡 城館跡 中世	個人住宅	尾上町長田 319	個人	慎重工事		加教文第 564 号
24	坂元遺跡 集落跡 縄文～中世	宅地造成	野口町坂元北一丁目 23-1	個人	慎重工事		加教文第 616 号
25	坂元遺跡 集落跡 縄文～中世	宅地造成	野口町坂元北一丁目 23-2	事業者	慎重工事	6月 17 日	加教文第 617 号

番号	遺跡	工事の目的	所在地	届出者	指導事項	調査期間 ^{a)}	文書番号
尾上構居跡 26 城壁跡 中世	住宅	尾上町長田 319-6	事業者	慎重工事			加教文第 636 号
池尻 55 号墳 27 古墳 古墳	その他開発	平荘町里 1137-12 外	加古川市	工事立会			加教文第 651 号
池尻 56 号墳 28 古墳 古墳	その他開発	平荘町里 1137-12 外	加古川市	工事立会			加教文第 652 号
溝之口遺跡 29 集落跡 弥生～平安	水道・ガス・電気	加古川町溝之口 32-2 地先	事業者	工事立会			加教文第 655 号
溝之口遺跡 30 集落跡 弥生～平安	住宅	加古川町溝之口 356	事業者	慎重工事			加教文第 666 号
升田遺跡 31 集落跡 奈良	その他開発	東神吉町升田 1213	事業者	慎重工事			加教文第 683 号
西条遺跡 32 集落跡 國文～平安	水道・ガス・電気	神野町西条 1052-1 外	事業者	工事立会			加教文第 706 号
尾上構居跡 城壁跡 中世	住宅	尾上町長田 325-1 外	事業者	慎重工事			加教文第 721 号
溝之口遺跡 34 集落跡 弥生～平安	住宅	加古川町美乃利 154-5	事業者	慎重工事	7 月 13 日		加教文第 759 号
大塚遺跡 35 集落跡 中世	店舗	野口町良野 23 の一部	事業者	発報調査 ^{b)}	7 月 14 ～ 16 日		加教文第 787 号
長砂構居跡 36 城壁跡 中世	宅地造成	野口町長砂 541-3 外	事業者	慎重工事	6 月 30 日		加教文第 819 号
西条遺跡 37 集落跡 國文～平安	個人住宅	神野町西条 1051-3	個人	慎重工事			加教文第 825 号
古代山陽道 38 その他の遺跡 奈良	個人住宅	野口町二屋 270-44・45	個人	慎重工事	7 月 6 日		加教文第 850 号
溝之口遺跡 39 集落跡 弥生～平安	住宅	加古川町溝之口 37-35	事業者	慎重工事			加教文第 861 号
直の宮遺跡 40 集落跡 弥生～古墳	住宅	尾上町口里 595-5	事業者	慎重工事			加教文第 869 号
長垣遺跡 41 集落跡 弥生	個人住宅	平岡町高畠 141-5・6	個人	慎重工事			加教文第 881 号
坂元遺跡 42 集落跡 國文～中世	個人住宅	野口町坂元北一丁目 21-1・6	個人	慎重工事			加教文第 885 号
下村遺跡 43 集落跡 弥生～平安	個人住宅	八幡町上西条 1-6	個人	慎重工事			加教文第 889 号
坂元遺跡 44 集落跡 國文～中世	個人住宅	野口町坂元 1072	個人	慎重工事			加教文第 914 号
坂元遺跡 45 集落跡 國文～中世	個人住宅	野口町坂元北一丁目 23-1	個人	慎重工事			加教文第 920 号

番号	遺跡	工事の目的	所在地	届出者	指導事項	調査期間 ^{a)}	文書番号
46	美乃利遺跡 集落跡 弥生～中世	その他建物	加古川町大野 966-1 の一部	事業者	慎重工事		加教文第 967 号
47	東神吉遺跡 集落跡 弥生・古墳	その他建物	東神吉町西井ノ口 221-1 外	個人	慎重工事		加教文第 976 号
48	加古川城跡 城郭跡 中世	個人住宅	加古川町本町 130-3	個人	慎重工事		加教文第 1002 号
49	美乃利遺跡 集落跡 弥生～中世	店舗	加古川町美乃利 450-1・3	事業者	慎重工事		加教文第 1043 号
50	上村池遺跡 集落跡、生産遺跡 弥生～平安	農業基盤整備	八幡町中西条地内	北播磨県民局	発掘調査		加教文第 1044 号
51	広原遺跡 集落跡 奈良～中世	農業基盤整備	八幡町中西条地内	北播磨県民局	発掘調査		加教文第 1047 号
52	長原遺跡 集落跡 弥生	水道・ガス・電気	平岡町高畠 138-6 地先	事業者	慎重工事		加教文第 1048 号
53	漢之口遺跡 集落跡 弥生～平安	個人住宅	加古川町漢之口 383-1・8	個人	慎重工事		加教文第 1115 号
54	升田遺跡 集落跡 奈良	その他開発	東神吉町升田 1212	事業者	慎重工事		加教文第 1124 号
55	長砂構居跡 城郭跡 中世	住宅	野口町長砂 541-6 外	事業者	慎重工事		加教文第 1148 号
56	長砂遺跡 集落跡 弥生	公園造成	野口町長砂 1049-5	加古川市	慎重工事		加教文第 1189 号
57	古代山陽道 その他の遺跡 奈良	水道・ガス・電気	野口町二屋 303-4・5	個人	慎重工事		加教文第 1190 号
58	井ノ口遺跡 集落跡 奈良	個人住宅	上荘町井ノ口 560-1 の一部	個人	工事立会	9月 7・9・10 日、10月 1 日	加教文第 1231 号
59	漢之口遺跡 集落跡 弥生～平安	住宅	加古川町漢之口 223-22	事業者	慎重工事		加教文第 1248 号
60	漢之口遺跡 集落跡 弥生～平安	水道・ガス・電気	加古川町漢之口 223-22 地先	事業者	慎重工事		加教文第 1249 号
61	横大路遺跡 散布地 磯穴	個人住宅	志方町横大路 268-6 の一部外	個人	慎重工事		加教文第 1301 号
62	尾上構居跡 城郭跡 中世	個人住宅	尾上町長田 471-1	個人	慎重工事		加教文第 1320 号
63	觀音寺城跡 城郭跡 中世	その他建物	志方町志方町 1074-4	事業者	慎重工事		加教文第 1345 号
64	漢之口遺跡 集落跡 弥生～平安	個人住宅	加古川町美乃利 149-12・13	個人	慎重工事		加教文第 1395 号
65	漢之口遺跡 集落跡 弥生～平安	その他建物	加古川町美乃利 134-1	個人	慎重工事		加教文第 1398 号

番号	遺跡	工事の目的	所在地	届出者	指導事項	調査期間 ^{a)}	文書番号
66	城館跡 中世	個人住宅	志方町志方 1538-2 の一部	個人	慎重工事	9月 28 日	加教文第 1399 号
67	尾上構居跡 中世	水道・ガス・電気	尾上町長田 117-12 外	事業者	慎重工事		加教文第 1405 号
68	浜の宮遺跡 集落跡 弥生・古墳	個人住宅	尾上町口里 594-3, 595-2	個人	慎重工事		加教文第 1406 号
69	坂元遺跡 集落跡 國文～中世	個人住宅	野口町坂元北二丁目 1-1	個人	慎重工事		加教文第 1471 号
70	美乃利遺跡 集落跡 弥生～中世	学校	加古川町大野 845	加古川市	工事立会		加教文第 1481 号
71	康之口遺跡 集落跡 弥生～平安	水道・ガス・電気	加古川町美乃利 134 地先	事業者	慎重工事		加教文第 1496 号
72	古代山陽道 その他の遺跡 奈良	水道・ガス・電気	平岡町二俣 905-131 外	事業者	慎重工事	10月 27 日	加教文第 1565 号
73	漢之口遺跡 集落跡 弥生～平安	水道・ガス・電気	加古川町美乃利 149 地先	事業者	慎重工事		加教文第 1567 号
74	西条遺跡 集落跡 國文～平安	個人住宅	神野町西条 949-3, 950-3	個人	慎重工事		加教文第 1593 号
75	一色構居跡 城館跡 中世	水道・ガス・電気	平岡町一色 64-3 地先	事業者	工事立会		加教文第 1661 号
76	美乃利遺跡 集落跡 弥生～中世	その他建物	加古川町大野 602-1 外	個人	工事立会		加教文第 1662 号
77	鳥坂遺跡 散布地 弥生	個人住宅	野口町坂元 86, 88-1 の各一部	個人	慎重工事		加教文第 1672 号
78	平野遺跡 集落跡 弥生	個人住宅	加古川町平野 456	個人	慎重工事		加教文第 1699 号
79	山之上遺跡 散布地 旧石器	その他建物	平岡町山之上 32	事業者	慎重工事		加教文第 1702 号
80	浜の宮遺跡 集落跡 弥生・古墳	個人住宅	尾上町口里 496-6	個人	慎重工事		加教文第 1704 号
81	古代山陽道 その他の遺跡 奈良	水道・ガス・電気	平岡町二俣 905-131 地先	事業者	慎重工事		加教文第 1770 号
82	浜の宮遺跡 集落跡 弥生・古墳	その他建物	尾上町口里 553-3	事業者	慎重工事		加教文第 1774 号
83	西条遺跡 集落跡 國文～平安	個人住宅	神野町西条 1154-2, 1155-9	個人	慎重工事	令和4年 2月 8・9日	加教文第 1775 号
84	漢之口遺跡 集落跡 弥生～平安	個人住宅	加古川町漢之口 373-1 の一部	個人	慎重工事	令和4年 1月 18 日	加教文第 1829 号
85	細田構居跡 城館跡 中世	宅地造成	野口町良野 77 の一部外	事業者	慎重工事	令和4年 1月 24・25 日	加教文第 1842 号

番号	遺跡	工事の目的	所在地	届出者	指導事項	調査期間 ^{a)}	文書番号
86	砂部遺跡 集落跡 國文～奈良 山之上遺跡	水道・ガス・電気	東神吉町吉野 520-20 地先	事業者	慎重工事		加教文第 1851 号
87	散布地 旧石器	水道・ガス・電気	平岡町山上 684-119 外	事業者	工事立会		加教文第 1879 号
88	美乃利遺跡 集落跡 弥生～中世	その他建物	加古川町美乃利 461、462-3	事業者	慎重工事		加教文第 1881 号
89	坂元遺跡 集落跡 國文～中世	住宅	野口町坂元北一丁目 23-2	事業者	慎重工事		加教文第 1891 号
90	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	個人住宅	加古川町溝之口 76-13、 77-12	個人	慎重工事	12月2日	加教文第 1892 号
91	東神吉遺跡 集落跡 弥生・古墳	水道・ガス・電気	東神吉町西井ノ口 217-3 地先	事業者	慎重工事		加教文第 1932 号
92	古大内遺跡 集落跡・官衙跡 奈良	宅地造成	野口町古大内 444-1 外	事業者	工事立会	令和4年 3月2・3日	加教文第 1933 号
93	長砂構造跡 城塙跡 中世	住宅	野口町長砂 592-2 外	事業者	慎重工事		加教文第 1954 号
94	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	個人住宅兼店舗	加古川町溝之口 218-6	個人	慎重工事		加教文第 1974 号
95	古の宮遺跡 集落跡 弥生・古墳	個人住宅	尾上町口里 594-5、595-3	個人	慎重工事		加教文第 1979 号
96	古大内遺跡 集落跡・官衙跡 奈良	その他開発	野口町古大内 457	事業者	工事立会		加教文第 1980 号
97	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	個人住宅	加古川町溝之口 85-4	個人	慎重工事		加教文第 2001 号
98	坂元遺跡 集落跡 國文～中世	その他建物	野口町坂元 1022 の一部	事業者	慎重工事		加教文第 2018 号
99	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	住宅	加古川町溝之口 32-15	事業者	慎重工事	12月27日	加教文第 2045 号
100	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	住宅	加古川町溝之口 172-7 外	事業者	慎重工事		加教文第 2046 号
101	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	住宅	加古川町溝之口 71-10、 121-1	事業者	慎重工事		加教文第 2047 号
102	尾上遺跡 集落跡 弥生・古墳	住宅	尾上町長田 113-1 の一部外	個人	慎重工事		加教文第 2056 号
103	尾上遺跡 集落跡 弥生・古墳	住宅	尾上町長田 123 の一部外	個人	慎重工事		加教文第 2057 号
104	鍵音守城跡 城塙跡 中世	個人住宅	志力町志方町 1536-4、 1537-1	個人	慎重工事		加教文第 2084 号
105	細田構造跡 城塙跡 中世	水道・ガス・電気	野口町良野 998 外	事業者	慎重工事		加教文第 2102 号

番号	遺跡	工事の目的	所在地	届出者	指導事項	調査期間 ⁽¹⁾	文書番号
106	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	水道・ガス・電気	加古川町溝之口 384-7 外	事業者	慎重工事		加教文第 2116 号
107	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	個人住宅	加古川町溝之口 76-12	個人	慎重工事		加教文第 2127 号
108	古代山陽道 その他の遺跡 奈良	水道・ガス・電気	平岡町山之上 621-11 外	事業者	慎重工事		加教文第 2165 号
109	長堀遺跡 集落跡 弥生	宅地造成	平岡町山之上 660	事業者	慎重工事	令和 4 年 2 月 1 日	加教文第 2185 号
110	出の宮遺跡 集落跡 弥生・古墳	個人住宅	尾上町口里 719-1	個人	慎重工事		加教文第 2186 号
111	出の宮遺跡 集落跡 弥生・古墳	その他開発	尾上町口里 528-1	事業者	慎重工事		加教文第 2200 号
112	中西低地遺跡 集落跡 弥生・古墳	宅地造成	西神吉町大国 16-1・2	事業者	慎重工事		加教文第 2206 号
113	吉神南遺跡 集落跡 弥生～奈良	その他開発	東神吉町神吉 72	事業者	慎重工事		加教文第 2207 号
114	大野遺跡 集落跡 平安・中世	その他開発	加古川町大野 603-1	事業者	工事立会		加教文第 2255 号
115	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	住宅	加古川町溝之口 32-13	事業者	慎重工事		加教文第 2284 号
116	坂元遺跡 集落跡 縄文～中世	個人住宅	野口町坂元北一丁目 21-4	個人	慎重工事		加教文第 2312 号
117	古代山陽道 その他の遺跡 奈良	水道・ガス・電気	野口町二屋 328-2	事業者	工事立会		加教文第 2390 号
118	天下原遺跡 集落跡 弥生～奈良	個人住宅	東神吉町天下原 169、169-6	個人	工事立会		加教文第 2442 号
119	東神吉遺跡 集落跡 弥生・古墳	住宅	東神吉町西井ノ口 221、 227	個人	慎重工事		加教文第 2455 号
120	出の宮遺跡 集落跡 弥生・古墳	個人住宅	尾上町口里 595-6	個人	慎重工事		加教文第 2505 号
121	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	個人住宅	加古川町溝之口 229-7	個人	慎重工事		加教文第 2550 号
122	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	その他開発	加古川町溝之口 351-6	個人	慎重工事		加教文第 2577 号
123	今福遺跡 集落跡 弥生	住宅	尾上町今福 385-1	個人	慎重工事		加教文第 2578 号
124	野口廬寺 社寺跡 奈良	個人住宅	野口町野口 352-8	個人	慎重工事		加教文第 2592 号
125	東神吉遺跡 集落跡 弥生・古墳	個人住宅	東神吉町砂部 354-11 外	個人	慎重工事		加教文第 2606 号

番号	遺跡	工事の目的	所在地	届出者	指導事項	調査期間 ^{※1}	文書番号
今福遺跡 126	集落跡 弥生	水道・ガス・電気	尾上町今福 385-1	事業者	慎重工事	加教文第 2668 号	
栗津大年遺跡 127	集落跡 中世	住宅	加古川町木村 43 の一部	事業者	慎重工事	加教文第 2684 号	
溝之口遺跡 128	集落跡 弥生～平安	水道・ガス・電気	加古川町溝之口 218-6	事業者	慎重工事	加教文第 2690 号	
栗津遺跡 129	集落跡 弥生・古墳	個人住宅	加古川町栗津 1058-2	個人	慎重工事	加教文第 2713 号	
長須遺跡 130	集落跡 弥生	個人住宅	平岡町山之上 624-2	個人	慎重工事	加教文第 2760 号	

※ 1 調査期間は推認調査の期間であり、発掘調査及び工事立会の期間は記載していない。

※ 2 届出提出後に事業中止となつたため発掘調査は実施していない。

(3) 文化財保護法に基づく埋蔵文化財発掘調査通知

令和3年度は、表 10 のとおり文化財保護法第 99 条に基づく埋蔵文化財発掘調査通知を提出した。

表 10 埋蔵文化財発掘調査通知一覧

番号	遺跡名	所在地	調査面積	調査の契機	調査期間	調査担当者	文書番号
1	上村池遺跡 集落跡・生産遺跡 奈良～中世	八幡町中西条地内	615 m ²	農業基盤整備	令和3年1月15日～ 令和4年2月15日	山中リュウ	加教文第 1044 号
2	美乃利遺跡 集落跡 弥生～中世	加古川町大野地内	296 m ²	道路	令和4年3月28日～ 8月5日	平尾美希	加教文第 2788 号

(4) 周知の埋蔵文化財包蔵地の変更報告

令和3年度は、表 11 のとおり周知の埋蔵文化財包蔵地の変更を報告した。

表 11 埋蔵文化財包蔵地の変更報告一覧

番号	遺跡名	所在地	変更理由	免見年月日	免見の事項	文書番号など	備考
1	石守遺跡 集落跡 古墳・奈良	神野町石守	全域免見	平成14年 11月28日	本発掘調査	令和3年11月30日付 加教文第 1905 号	令和3年12月28日付 教文第 2505 号にて通知
2	半末遺跡 集落跡 弥生	神野町神野	全域免見	平成11年 7月8日	本発掘調査	令和3年11月18日付 加教文第 1816 号	令和3年12月28日付 教文第 2506 号にて通知
3	大藤山3号墳 古墳	志方町永室	全域免見	令和3年 10月8日	分布調査	令和3年10月18日付 加教文第 1614 号	令和3年12月28日付 教文第 2507 号にて通知
4	平津遺跡 集落跡 弥生～平安	米田町平津	全域免見	平成9年 1月23日	試掘調査 確認調査	令和3年11月24日付 加教文第 1820 号	令和3年12月28日付 教文第 2508 号にて通知
5	広沢山遺跡 集落跡 古墳～平安	加古川町大野	一部範囲消滅	令和3年 10月14日	遺跡地図改訂 による見直し	令和3年10月15日付 加教文第 1613 号	令和3年12月28日付 教文第 2509 号にて通知

(5) 埋蔵物発見届

令和3年度は、表12のとおり埋蔵物発見届を提出した。

表12 埋蔵物発見届一覧

番号	遺跡名	所在地	埋蔵物の名称及び数量	発見月日	発見者	土地所有者	文書番号
1	西条遺跡 集落跡 岡文～平安	神野町西条 1651-3	弥生土器・土師器・須恵器など 遺物収納コンテナ1箱	5月18日	加古川市教育委員会	個人	加教文第44号
2	大塚遺跡 集落跡 中世	野口町良野 23の一部	須恵器 遺物収納コンテナ1箱	10月11日	加古川市教育委員会	個人	加教文第787号
3	上村池遺跡 集落跡・生產遺跡 奈良～中世	八幡町中西条 地内	土師器・須恵器・瓦など 遺物収納コンテナ7箱	2月15日	加古川市教育委員会	個人	加教文第1044号
4	井ノ口遺跡 集落跡 奈良	上庄町井ノ口 560-1の一部	土師器・須恵器など 遺物収納コンテナ1箱	10月8日	加古川市教育委員会	個人	加教文第1231号
5	古大内遺跡 集落跡・官衙跡 奈良	野口町古大内 457	瓦 遺物収納コンテナ1箱	令和4年 3月1日	加古川市教育委員会	個人	加教文第1980号
6	唐之口遺跡 集落跡 弥生～平安	加古川町唐之口 32-15	弥生土器・土師器・須恵器・ 瓦質土器など 遺物収納コンテナ1箱	令和4年 2月15日	加古川市教育委員会	事業者	加教文第2015号

(古林)

第5章 組織、予算・決算、管理

1 文化財保護事務の体制

(1) 事務局

令和3（2021）年度の加古川市教育委員会の文化財保護事務の体制は以下のとおりである。

加古川市教育委員会事務局	教育指導部	文化財調査研究センター
教育長 小南克己	部長 神吉直哉	
	次長 杉本達之	

(2) 職員

令和3年度の文化財調査研究センターの職員は以下のとおりである。

所長	河村孝弘
副所長	官本佳典（学芸員）
庶務担当係長	藤本庸介（教育研究所事務担当係長兼務）
主査	前田正尚
主査	高下 寛
学芸員	山中リュウ
学芸員	平尾英希
学芸員	古林舞香
会計年度任用職員	岡田美徳（埋蔵文化財専門員）
会計年度任用職員	鳴瀬万寿美

2 予算・決算

(1) 岁入決算額（）内は当初予算額

（款）国庫支出金	（項）国庫補助金	（目）教育費国庫補助金	3,250千円（3,250千円）
（款）県支出金	（項）県補助金	（目）教育費県補助金	1,625千円（1,625千円）
（款）諸収入	（項）受託事業収入	（目）教育費受託収入	13,057千円（13,095千円）
（款）諸収入	（項）雑入	（目）雑入	20千円（20千円）
計			17,952千円（17,990千円）

(2) 岁出決算額（）内は当初予算額、事業名の下に主な事業内容を記入

（款）教育費	（項）社会教育費	（目）文化財保護費	以上共通
（事業）文化財調査事業			23,938千円（25,336千円）
市内遺跡発掘調査（国庫補助事業）、雁戸井地区は場整備事業に伴う発掘調査、神納塚古墳・広沢山遺跡発掘調査報告書作成、遺跡分布地図作成、公共事業に伴う試掘調査、市内金属製品保存処理			
（事業）文化財保護活動事業			7,598千円（8,712千円）
文化財審議委員会等開催、文化財ニュース発行、文化財説明板等設置、史跡及び建造物等管理、文化財保存管理補助、史跡及び建造物等草刈等管理、その他の文化財関係事務			
計			31,536千円（34,048千円）

3 施設管理等

市内史跡などの環境整備として、加古川市が管理する国指定史跡西条古墳群（行者塚古墳、人塚古墳、尼塚古墳）、県指定史跡西条廐寺跡、南大塚古墳、西大塚古墳の草刈等環境整備を加古川市シルバー人材センターに、高木強剪定を専門業者に委託して実施した。

文化財説明板等の設置及び環境整備として、加古川市が提供する文化財説明板等の設置及び周辺の清掃等環境整備を加古川市シルバー人材センターに委託して実施した。

4 令和3年度業務日誌抄

- 5月 24 日～6月 2 日 みとろフルーツパーク再整備事業に伴う上荘町見土呂地区試掘調査
- 5月 26 日～6月 29 日 権現総合公園整備事業に伴う奥新田遺跡及び平荘町中山地区試掘・確認調査
- 6月 1 日 東神吉小学校 6年生郊外学習に係る講師派遣（宮本）
- 6月 15 日 扳元の石造宝篋印塔修理工事立会（宮本・山中）
- 6月 23 日 第1回文化財審議委員会
- 7月 16 日 出土資料整理に係る資料調査（行者塚古墳出土資料）受入れ
- 7月 19 日 本岡家住宅茅葺屋根小修理工事立会（前田・古林）
- 7月 24 日～3月 27 日 企画展「発掘された加古川（加古川総合文化センター博物館）」開催
- 8月 14 日 加古川市立少年自然の家・ウェルネスパーク図書館「こわいおはなし会」に係る本岡家住宅使用受入れ
- 8月 17 日～9月 3 日 学術研究に係る資料調査（行者塚古墳出土資料）受入れ
- 9月 9 日 卒業論文執筆に係る資料調査（池尻 2号墳出土資料）受入れ
- 9月 16 日 企画展「発掘された加古川」展示解説（平尾）
- 9月 24 日 兵庫県中・西播磨地区文化財担当者会議（オンライン開催）に出席（山中）
- 10月 6・7 日 埋蔵文化財担当職員研修（専門技術研修）のため兵庫県立考古博物館に出張（古林）
- 10月 18 日 明石市立沢池小学校「自然学校プログラム」お話会に係る本岡家住宅使用受入れ
- 10月 21 日 大中遺跡調査研究・活用プロジェクト（調査研究部門）令和3年度第1回研究会のため兵庫県立考古博物館に出張（山中）
- 10月 23 日 第1回文化財講座
- 10月 29 日 特別展準備に係る資料調査（北大塚古墳出土資料ほか）受入れ
- 11月 2 日 加古川総合文化センター「収蔵庫パックステージツアー（オンライン開催）」に係る取材協力（平尾）
- 11月 6 日 第2回文化財講座
- 11月 12 日 氷丘公民館「陵の里学園」に係る講師派遣（山中）
- 11月 15 日～2月 15 日 雁戸井地区は場整備に伴う上村池遺跡本発掘調査
- 11月 15 日 兵庫県埋蔵文化財調査成果連絡会のため兵庫県立考古博物館に出張（古林）
- 11月 15 日 特別展準備に係る資料調査（溝之口遺跡出土資料）受入れ
- 11月 20 日 第3回文化財講座
- 11月 22 日 第2回文化財審議委員会
- 11月 24～28 日、30 日 「本岡家住宅」秋の特別公開開催
- 12月 11 日 氷丘公民館「地域学講座」に係る講師派遣（古林）

- 12月15日 論文執筆に係る資料調査（池尻2号墳・カンヌ塚古墳出土資料）受入れ
- 1月15日 水丘公民館「地域学講座」に係る講師派遣（平尾）
- 1月19日 東播磨・北播磨地区文化財担当者会のため加西市役所に出張（平尾）
- 1月20日 第3回文化財審議委員会開催
- 1月23日 「文化財防火デー」に係る鶴林寺消防訓練
- 1月26日 特別展準備に係る資料調査（長慶寺山1号墳出土資料ほか）受入れ
- 1月29日 上村池遺跡発掘調査現地説明会開催
- 1月31日 『神納塚古墳発掘調査報告書・広沢山遺跡発掘調査報告書』刊行
- 3月4日 博物館資料取扱研修会（オンライン開催）に参加（平尾）
- 3月10日 定例教育委員会議にて「木造金剛界大日如来坐像」を市指定文化財に指定
- 3月10日 兵庫県史跡整備市町村協議会総会及び研修会（加古川大会）を加古川中央図書館
2階視聴覚室等で開催
- 3月12日 企画展「発掘された加古川」ギャラリートーク（平尾）
- 3月23・24日 文化財説明板及び標柱の立替え実施
- 3月25日 『加古川市遺跡分布地図－第4版－』刊行
- 3月28日～8月5日 中津水足線外1線道路改良事業に伴う美乃利遺跡発掘調査
- 3月31日 『加古川市文化財年報 第5号 令和元（2019）年度』刊行
- 3月31日 『文化財ニュース』65号、『文化財解説シート』29-32号発行

(吉林)

報告書抄録

ふりがな	かこがわしぶんかざいねんぼう だいななごう						
書名	加古川市文化財年報 第7号						
副書名	令和3(2021)年度						
卷次							
シリーズ名							
シリーズ番号							
編著者	山中リュウ、平尾英希、古林舞香(編)						
編集機関	加古川市教育委員会						
所在地	〒675-0101 兵庫県加古川市平岡町新在家 1224番地の7						
発行年月日	令和6(2024)年3月22日						

ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号					
西条遺跡	加古川市 神野町西条 1051番3	28210	110485	34° 47' 13"	134° 52' 54"	2021年4月27日	4.5 m ²	宅地造成
大塚遺跡	加古川市 野口町良野 23番地の一部	28210	110637	34° 45' 06"	134° 50' 40"	2021年7月14日 ～7月16日	45.8 m ²	店舗
井ノ口遺跡	加古川市 上荘町井ノ口 560番1の一部	28210	110304	34° 48' 16"	134° 54' 09"	2021年9月7・9・ 10日、10月1日	23.55 m ²	個人住宅
溝之口遺跡	加古川市 加古川町溝之口 32番15	28210	110010	34° 45' 54"	134° 50' 55"	2021年12月27日	4.0 m ²	住宅

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
西条遺跡	集落	縄文～平安	なし	弥生土器・土師器・須恵器	
大塚遺跡	集落	中世	溝状遺構	須恵器	
井ノ口遺跡	集落	奈良	ピット・溝状遺構	土師器・須恵器	
溝之口遺跡	集落	弥生～平安	溝状遺構	弥生土器・土師器・須恵器・ 瓦質土器	
資料の 保管機関	加古川市教育委員会 文化財調査研究センター 〒675-0101 兵庫県加古川市平岡町新在家 1224番地の7				



加古川市文化財調査研究センター
ホームページ

加古川市文化財年報
第7号
令和3（2021）年度

令和6（2024）年3月22日発行

編集・発行 加古川市教育委員会 文化財調査研究センター
〒 675-0101 兵庫県加古川市平岡町新在家 1224 番地の 7
TEL 079-423-4088

印 刷 小野高速印刷株式会社
〒 670-0933 兵庫県姫路市平野町 62
TEL 079-281-0008